紅茸山南遺跡発掘調査概要

２００２年3月

大阪府教育委員会

はしがき

紅茸山南遺跡は、高槻市安満北の町に所在します。本遺跡の北側には「青龍三年」(235 年)と記された鏡(方格規矩四神鏡)が出土したことで有名な安満宮山古墳が存在し、この古墳は現在安満山の中腹に復元されております。安満山は、平安時代から春日神社(現磐手社神社)の神域として守られてきました。

また、本遺跡南側には弥生時代の環濠集落として著名な安満遺跡があります。安満遺跡は、弥生時代前期から集落が営まれておりましたが、後期になると周辺には高地性集落といわれる古曽部遺跡や紅茸山遺跡が存在します。

今回、「安満新池」改修工事に伴い発掘調査を実施しましたところ、安満山から派生する段丘と谷部、平坦面には弥生時代から中世までの住居や溝、ゴミ捨て穴などが見つかりました。これら人々が残した痕跡は、この地域の歴史を考える上で貴重な資料となることと思います。

現地での発掘調査にご理解とご協力を賜った地元住民の皆様をはじめ、高槻市教育委員会、大阪北部農と緑の総合事務所ほか、関係機関、関係者の皆様に厚くお礼申し上げますとともに、今後とも文化財の保護にご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成 14 年 3 月

大阪府教育委員会
文化財保護課　小林　栄

例　言

1. 本書は、大阪府教育委員会が実施した「安満新池」改修工事に伴う、高槻市安満北の町所在、紅茸山南遺跡発掘調査報告である。現地による発掘調査は、環境農林水産部から依頼を受けた大阪府教育委員会が、平成12・13年度に渡って実施した。調査は、平成12年12月15日から平成13年3月30日まで、面積1,600㎡を文化財保護課調査第1グループ技師山上弘(1～4区)、平成13年7月2日から9月14日まで、面積720㎡(5、6区)を同技師井西貴子を担当者として実施した。整理作業は現場と並行して実施し、平成14年3月に終了した。
2. 本書の執筆は、井西貴子、山上弘が行い、編集は井西が行った。
3. 本書に掲載した遺構写真は航空写真は、各調査担当者が撮影した。
4. 航空測量は、平成12・13年とも昭和株式会社に委託した。
5. 出土した遺物、調査及び遺物整理にあたって作成した実測図、写真等の資料は大阪府教育委員会が保管している。
6. 現地での発掘調査にあたっては、地元住民の方々及び下記の機関からご協力を得た。記して感謝いたします。
   高槻市教育委員会　高槻市公民館　磐手小学校　大阪北部農と緑の総合事務所

本文目次

1　地理的・歴史的環境 …… 1
2　調査経過 …… 3
3　調査成果
　①　基本層序 …… 3
　②　遺構と遺物 …… 4
4　まとめ …… 32
報告書抄録 …… 33

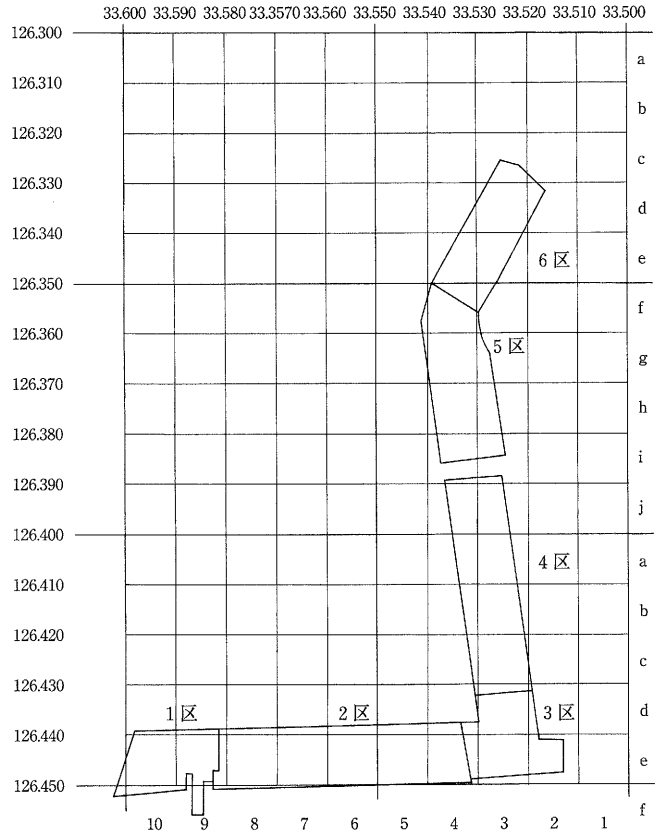
凡 例

① 地区割り

地区割りは、国土座標第Ⅵ系に基づき、1万分の1の地形図を使用し、縦6㎞、横8㎞の第1区画、2500分の1地形図を使用した縦1.5㎞、横2㎞の第Ⅱ区画、第Ⅱ区画内を100m単位で区画した第Ⅲ区画、第Ⅲ区画内を10m単位で区画した第Ⅳ区画を用いて位置を標記した。本報告における調査区の位置は、K6－16－D16－c～j2～4、K6－16－E16－a～f2～10である。第Ⅰ・Ⅱ区画については、いずれもK6－16の範囲であるためこの部分の表記を省略する。

② 調査番号・遺構番号

調査番号は大阪府で採用している年度ごとの通し番号が対応する。遺物の取り上げ、現場作業及び遺物の図面類、写真類についてもすべて調査番号が対応する。



第1図　トレンチ配置図

平成12年度調査の調査番号は00045、平成13年度の調査番号は01008である。

遺構番号については、整理作業との混乱を避けるため現場作業における番号を変更していない。遺構番号は年度ごとの通し番号であるため、1～4区と5、6区では重なっていることがある。今回の報告で番号がとんでいるのは、整理に当たり必要な遺構番号のみを表記したためである。

1. 地理的・歴史的環境

高槻市は大阪府の北東部に位置し、南北に長軸を持つ菱形に近い形である。市域北部は、古生層・丹波層群の丹波高地から連なる標高150～700mの北摂山地が、中央部は大阪層群で構成する標高30～200mの高槻丘陵、南平台丘陵、奈佐原丘陵、南西に張り出す富田台地が展開し、南部は大阪平野北部を形成する標高10m以下の淀川低地へとつながる。これらの地形は、三島地域(現三島郡島本町、高槻市(樫田地区は除く)、茨木市、摂津市、吹田市、箕面市の一部)の中心部を有馬・高槻構造線を構成する真上断層帯が横断していることによる。また市域は北摂山地より発する芥川、桧尾川によって三分され、いずれも淀川に流れ込む。

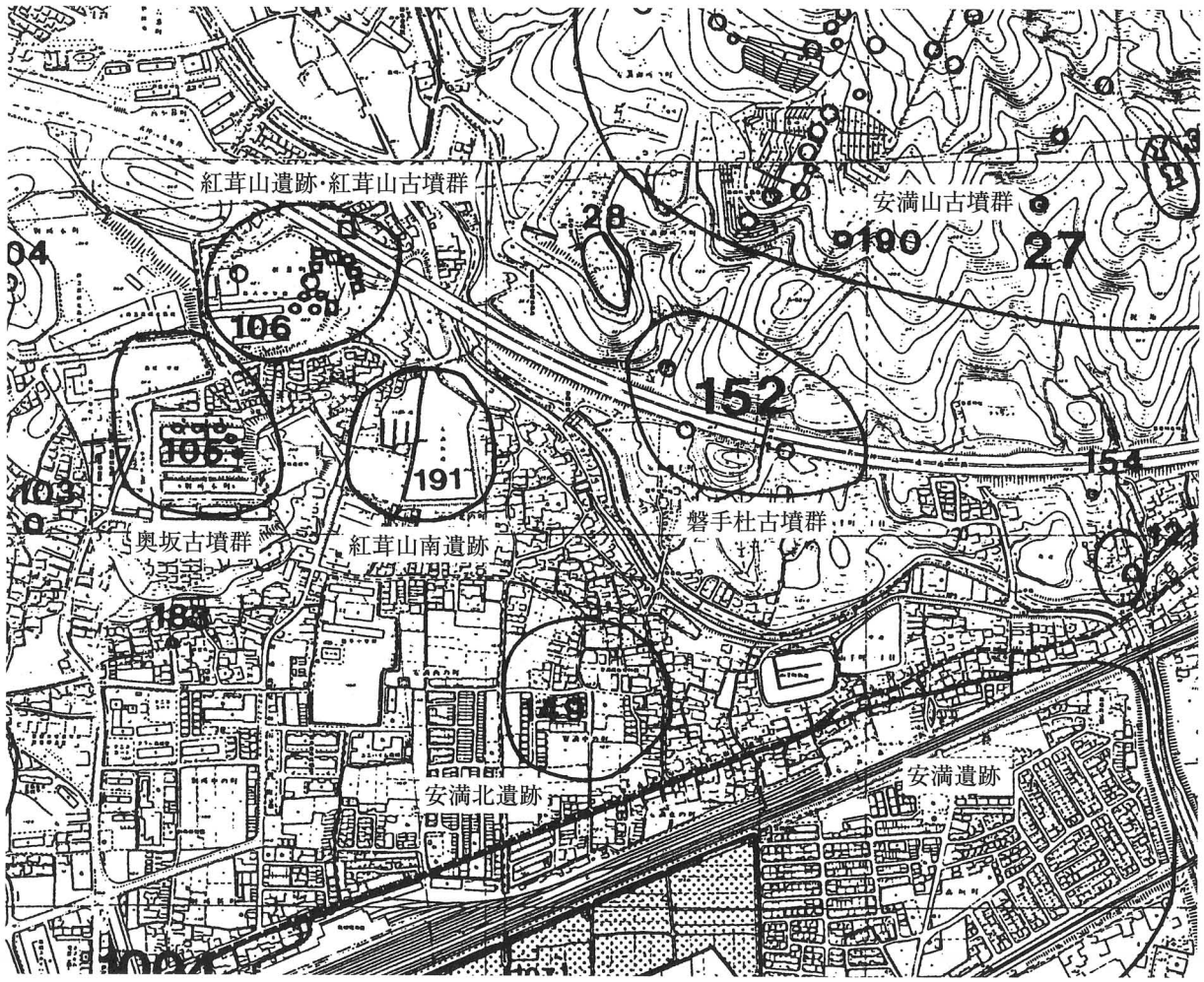
本遺跡は、高槻市磐手地区に所在する。成合盆地を流れる桧尾川が、北摂山地の一部である安満山西麓と高槻丘陵東縁部の紅茸山の間を南北に流れ出た西側に位置する。地層は桧尾川の形成する安満扇状地であり、扇状地面の傾斜が大きいことが特徴である。安満扇状地の末端には弥生時代の環濠集落・拠点集落として著名な安満

遺跡が存在する。本調査地は明治末年頃に新たに造られた「安満新池」にあたり、ため池築造以前は、宅地、畑等であった。これを移転して三方に堤体を盛り上げてため池とし、安満地区の水田を灌漑する。

市域内の山麓や平野部では、先史時代から歴史時代にわたる様々な遺跡が発見されている。

旧石器時代の遺跡は、芥川西岸の富田台地(低位段丘)を中心に所在する郡家今城遺跡や津之江南遺跡などが確認されている。縄文時代では、後期の芥川遺跡が確認されており、晩期には遺跡数も増える。弥生時代には、先述した学史的にも著名な安満遺跡が存在し、中期以降は天神山遺跡、古曽部遺跡・芝谷遺跡(高地性集落)、後期になると萩ノ庄遺跡、紅茸山遺跡(高地性集落)などでも集落跡が確認されている。また、安満遺跡は弥生時代から幾つかの消長を経て中世まで集落が存続するという点からも遺跡の重要性が窺える。古墳時代前期には、安満山の中腹に、中国魏の年号である「青龍三年」(235 年)銘の方格規矩神獣鏡と初期のタイプの三角縁神獣鏡 5 面が共伴して出土したことで価値のある安満宮山古墳が築かれる。本遺跡周辺の北摂山地南東部や高槻丘陵の斜面地には、小規模ではあるが安満山古墳群、磐手杜古墳群、紅茸山古墳群、奥坂古墳群などの群集墳が形成される。

本調査地においては、中世の耕作土とともに多量の当該期の遺物と建物跡を確認した。今回の調査成果により、周辺にも集落が広がるとの想定できる。

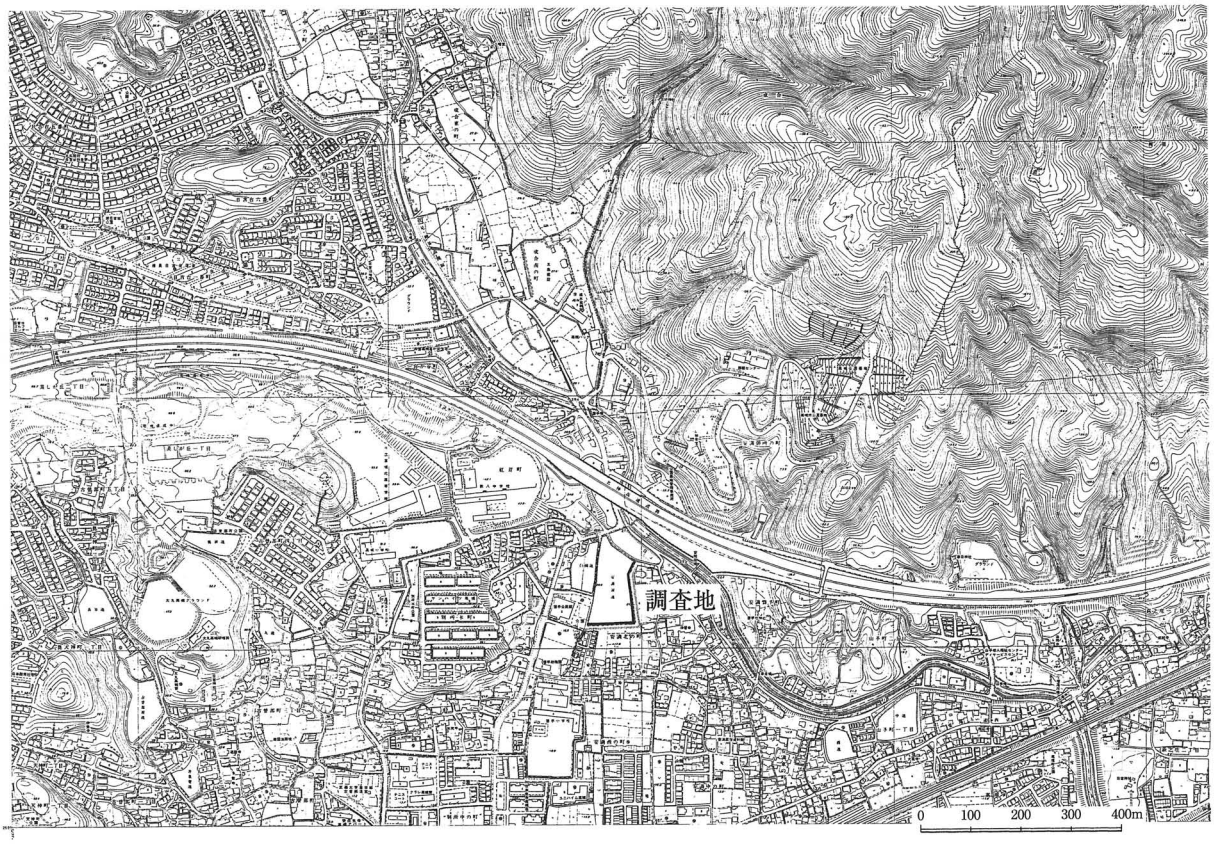


第2図　周辺遺跡分布図

2. 調査経過

文化財保護課は、大阪北部農と緑の総合事務所耕地課より高槻市安満北の町所在「安満新池」、別所本町所在「安満新池(長池)」の改修を実施するとの協議を受け、平成 12 年同ため池の試掘調査を実施した(担当：文化財保護課主査泉本知秀)。その結果、「安満新池」「安満新池(長池)」ともに遺物の出土と「安満新池」では遺構が検出され、文化財保護法による新発見の遺跡であることが確認された。よって本府教育委員会は農と緑の総合事務所より 57 条の 6(遺跡発見通知)の提出を受け、『紅茸山南遺跡』として文化財分布図(2001 年 3 月発行)に登録した。

発掘調査については、「安満新池(長池)」は、ため池改修工事の掘削深度が遺構面に達しないとの協議結果から調査の必要はないとの判断をし、工事を実施してもよいとの回答を行った。「安満新池」については、ため池改修工事の掘削深度が遺構面に達する地区について調査を実施することとなった。よって東と南側の堤体部分についての調査を実施した。平成 12 年度は南側(延長 90m：1～3 区)と東側の南部(延長 45m：4 区)、平成 13 年度は東側北部(延長 60m：5、6 区)について(平成 12 年度の工事残土との関係から 30mずつ工区を分けて(6 区：北側、5区：南側)調査を実施した。



第3図　周辺位置図

3. 調査成果

① 基本層序

第1層　ため池(ヘドロ)埋土。層厚約20 ㎝。

第２層　10GY6/1 緑灰色シルト層(やや粘質)。耕土。層厚約 10～30 ㎝。近世～近代の遺物包含層。調査地全体に堆積している層である。上面が第１面で、近世から近代の遺構面である。

第３層　5GY3/1 暗オリーブ灰色土(幅 0.3～2 ㎝の礫を多く含む)。中世遺物包含層。層厚 5～15 ㎝。6 区の南西部と５区にのみ堆積する土層で、遺物の包含量は多い。上面が第２面－①、下面が第２面－②。

第４層　5Y5/4 オリーブ灰色シルト層。層厚約 10～20 ㎝。弥生時代中期から古墳時代の遺物が含まれる。古墳時代後期の遺物包含層。1～４区南半に堆積する層で、３区では地形が高くなっているので堆積は薄い。上面が第２面、下面が第３面。

地山層　礫層、砂層など地区ごとに違っている。４区北半、５・６区では礫層が確認され、1～４区では砂層や礫層が確認された。1～４区では、上層に古墳時代包含層(第４層)が挟在し、地山の上面は弥生時代中期から布留式期の遺構面となる。５・６区では、第４層が確認されず、地山上面は第２面となり最終面である。

② 遺構と遺物

１区　遺構面を２面検出した。第２面は古墳時代から中世、第３面は弥生時代中期から布留式期である。

第２面

12　E16－e10 区で検出した方形の土坑で、北側は 13 に切られる。長軸 0.8m以上、短軸 0.7m、深さ 17 ㎝である。埋土は2.5Y3/2 黒褐色砂質土１層である。遺物は瓦器碗(1)、青磁碗(2)等が出土した。

13　E16－e10 区で検出した円形の土坑で、径 0.9m、深さ 20 ㎝である。埋土は 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土１層である。遺物は土師小皿(3)、台付土師小皿(4)等が出土した。

49　E16－e10 区で検出した円形のピットで、径 0.2m、深さ 10 ㎝である。埋土は N4/0 灰色土１層である。遺物は土師小皿(5)等が出土した。

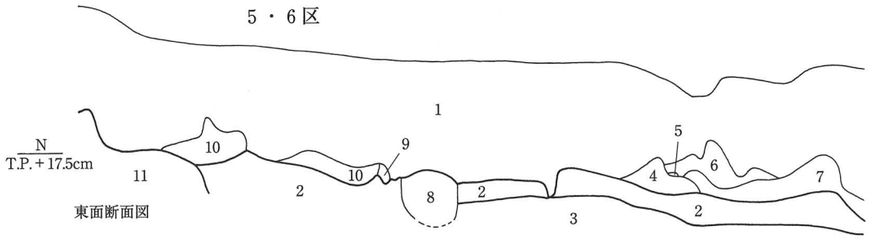
121　E16－e10 区で検出した深さ 10 ㎝の落ちである。西側は調査区外、東は後世の攪乱で破壊されている。埋土はN4/0 灰色土１層である。遺物は白磁碗(6)、瓦器碗等が出土した。

143　E16－e9 区で検出した、ほぼ南北方向の直線の溝である。南側は石組み護岸の池状遺構に切られ、北側は調査区外である。検出長 3.4m、幅 0.54m、深さ 20 ㎝である。埋土は 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色+5G4/1 暗緑灰色砂質土１層である。遺物は土師小皿(7)等が出土した。

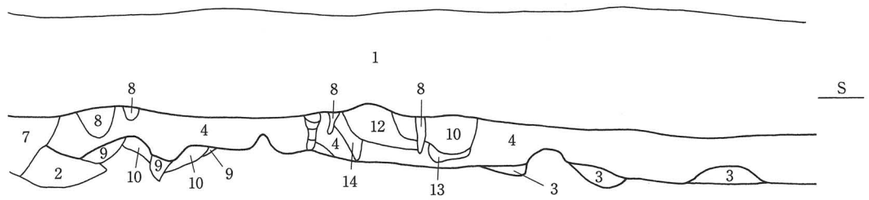
145　E16－e9 区で検出した、北北東－南南西方向の直線の溝である。南北ともに調査区外である。幅 2.1m以上、深さ 35 ㎝である。先後関係が確認できるところで観察すると 148 を 145 が切っている。145 の最終堆積層は、西側で確認された落ち同様の堆積層(2.5GY4/1 黄灰色粘質土)で埋まっており、溝が機能しなくなった後も地形が窪んでいたと考えられる。埋土は大きく４層に分層でき、暗緑灰色から暗オリーブ灰色シルト～粗砂層である。遺物は瓦器碗(8～10)、瓦器小皿(11)、土師小皿(12～24)、土師質焙烙(25)、足付小皿(26)、瓦質羽釜(27、28)、須恵器摺り鉢(29)、土師器竈、青磁皿、埴輪、弥生土器壺、石等が出土した。

148　E16－ｆ9 区で検出した、北北東－南南西方向の直線の溝である。南北ともに調査区外である。幅 0.7m以上、深さは 25 ㎝である。埋土は大きく 2 層に分層でき、暗緑灰色から暗オリーブ灰色粘質シルト～粗砂層である。遺物は瓦器碗(30)、瓦質羽釜(31)、陶器碗(32)、縄紋土器の甕(33)、石鍋、陶器碗等が出土した。

5・6区

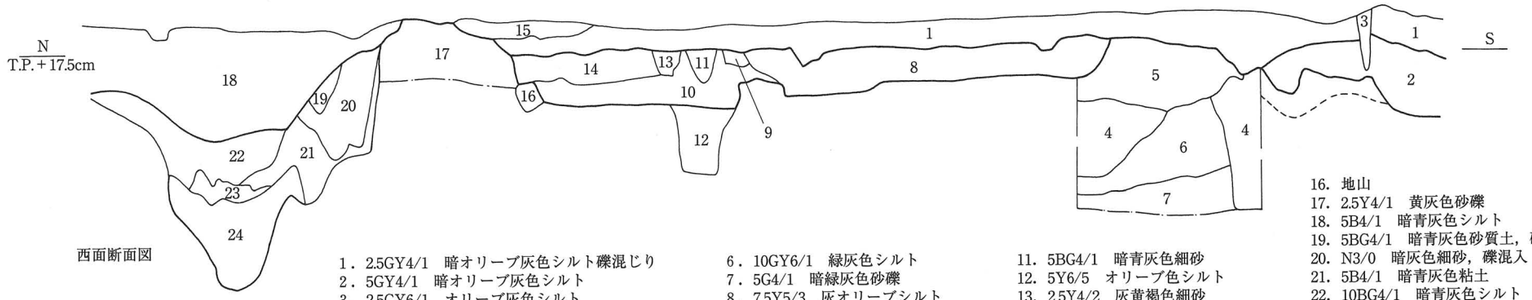


東面断面図



1．（カクラン）
2．7.5GY5/1　緑灰色シルト（やや粘性あり）
3．2.5Y4/3　オリーブ褐色粘質シルト（上部にMnあり）
4．10Y5/2　オリーブ灰色細砂（3～5mmの礫、2～5cmの石を少量含む）
5．7.5GY5/1　緑灰色細砂
6．7.5Y5/3　灰オリーブ色細砂（2cm程度の小石を含む）
7．5G4/1　暗緑灰色粘質シルト（やや砂質を含む）
8．5GY4/1　暗オリーブ灰色粘質土（2～5mmの礫、6～20cmの石を含む）
9．2.5GY4/1　暗オリーブ灰色シルト（やや粘性あり、4～10cmの石、2～5mmの礫を含む）
10．7.5GY4/1　暗緑灰色シルト
11．10Y5/1　灰色砂礫（3～7cmの石を含む）
12．10GY6/1　緑灰色シルト
13．2.5Y4/2　灰黄褐色シルト
14．5Y6/6　オリーブ細砂

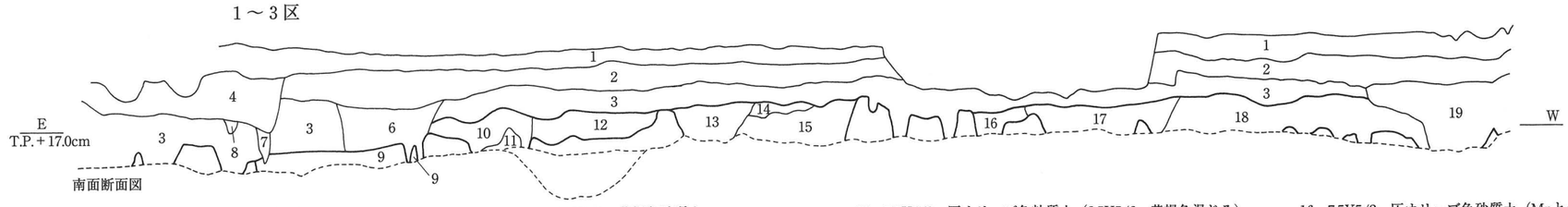
4区



西面断面図

1．2.5GY4/1　暗オリーブ灰色シルト礫混じり
2．5GY4/1　暗オリーブ灰色シルト
3．2.5GY6/1　オリーブ灰色シルト
4．N5/0　灰色砂礫
5．7.5GY6/1　緑灰色シルト
6．10GY6/1　緑灰色シルト
7．5G4/1　暗緑灰色砂礫
8．7.5Y5/3　灰オリーブシルト
9．2.5Y4/2　暗灰黄色細砂
10．5Y5/4　オリーブ色シルト
11．5BG4/1　暗青灰色細砂
12．5Y6/5　オリーブ色シルト
13．2.5Y4/2　灰黄褐色細砂
14．5Y6/6　オリーブ色細砂
15．5Y5/1　灰色細砂
16．地山
17．2.5Y4/1　黄灰色砂礫
18．5B4/1　暗青灰色シルト
19．5BG4/1　暗青灰色砂質土，礫混入
20．N3/0　暗灰色細砂，礫混入
21．5B4/1　暗青灰色粘土
22．10BG4/1　暗青灰色シルト
23．N5/0　灰色粘土
24．N4/0　灰色粘土（炭混入）

1～3区

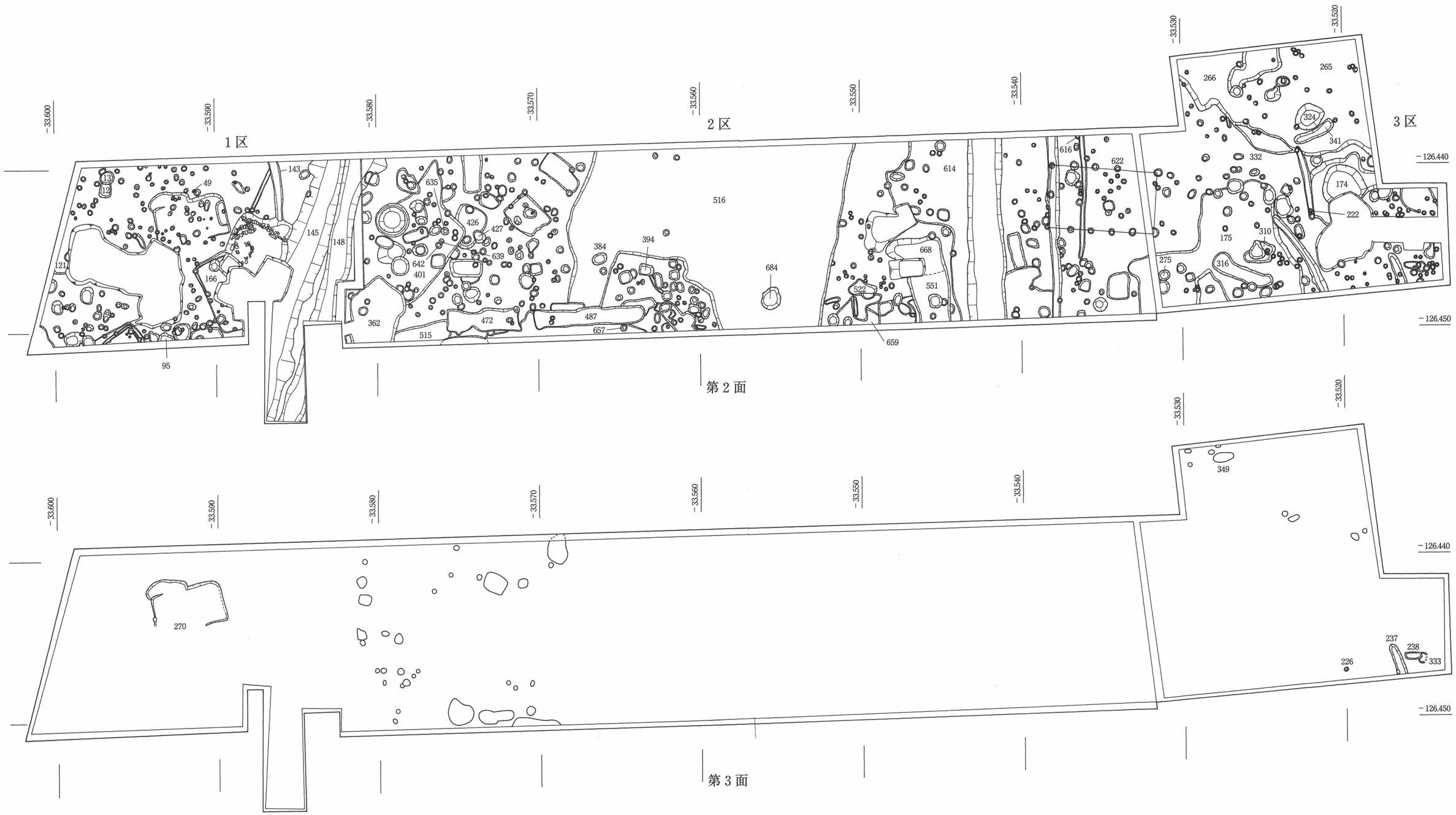


南面断面図

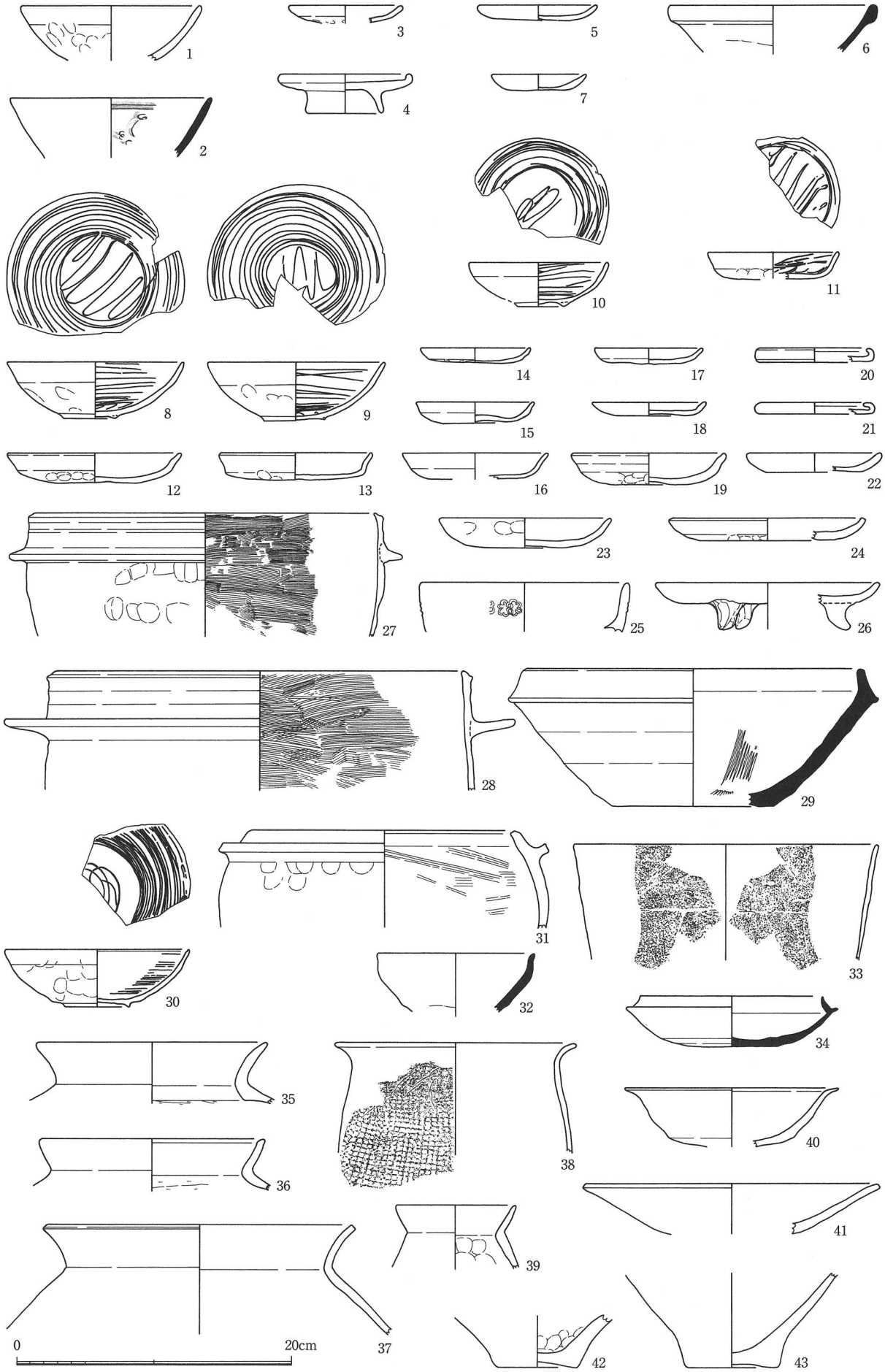
1．5Y4/1　灰色粘質土（Mn少し含む）
2．5Y5/3　灰オリーブ色粘質土（2.5Y5/6　黄褐色粘質土混じる）
3．2.5Y4/2　暗灰黄色砂質土（ところどころ多く礫混じる）
4．2.5Y3/3　暗オリーブ褐色粘質土（Mnと土器少し含む）
5．5Y5/2　灰オリーブ色粘質土
6．2.5Y5/3　黄褐色砂質土
7．5Y5/4　オリーブ色粘質土
8．5Y5/3　灰オリーブ色砂質土
9．2.5Y4/1　黄灰色砂質土
10．2.5Y5/4　黄褐色砂質土（土器と礫含む）
11．7.5Y4/2　灰オリーブ色粘質土（2.5Y5/6　黄褐色混じる）
12．7.5Y5/2　灰オリーブ色粘質土（2.5Y5/6　黄褐色混じる）
13．7.5Y4/2　灰オリーブ色砂質土
14．5Y4/1　灰オリーブ色砂質土（Mnと土器含む）
15．5Y4/2　灰オリーブ色砂質土
16．7.5Y5/2　灰オリーブ色砂質土（Mnと土器含む）
17．2.5Y4/2　暗灰黄色砂質土（土器と礫混じり）
18．2.5Y4/3　オリーブ褐色土
19．5GY4/1　暗オリーブ灰色粘質土（礫少し含む）

0　5　10m

第4図　基本層序模式図



第5図　1～3区全体図（S＝1：200）（00045）


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
0
20cm

第6図　1区、遺物実測図

95　E16－ｆ10 区で検出した土坑。南は調査区外である。深さ 20 ㎝を測り、埋土はN4/0 灰色土１層である。遺物は須恵器坏身(34)等が出土した。

166　E16－e10 区で検出した方形の竪穴住居である。東側約３分の２が後世の攪乱で破壊されている。平面形は隅丸方形で西辺 4.3mを測る。検出面から床面までの深さ 20cm を測り、埋土は上下２層に分かれ、下層が 10YG4/1 暗緑灰色粘質土、上層が 10Y4/2 オリーブ灰色粘質土(焼土含)である。壁溝は北壁と西壁の北半部で検出され、幅 0.2m、深さ５㎝を測り、埋土は 10Y3/1 オリーブ黒色粘質土１層である。住居内の遺構は、土坑を２ヶ所で検出した。遺物は土師器の甕(35～37)、韓式系の甕(38)、小型壺(39)、鉢(40)、高坏(41)等が床面からやや浮いた状況で出土した。

110　E16－f10 区で検出した方形の竪穴住居である。北コーナー部と北西辺 3.0m、北東辺 1.5mが検出され、南側の大半が調査区外である。壁面に沿って幅 0.2m、深さ５cm の壁溝が検出された。検出面から床面までの深さ 10cm、埋土は10YR4/4 褐色粘質土１層である。遺物は出土しなかった。

第３面

270　E16－e10 区で検出した方形の落ちで、ピット群は本遺構の上面で検出された。幅４m×2.5～３m、深さ 10 ㎝である。埋土は 7.5Y4/2 灰オリーブ色砂質土１層である。遺物は弥生土器壺底部(42、43)等が出土した。

２区　遺構面は、２面存在する。第２面は古墳時代から中世、第３面は弥生時代中期から布留式期である。

第２面

472　E16－f8 区で検出した東西方向の土坑で、平面形は不整方形を呈する。長辺 4.5m、短辺 0.9～1.3m、深さ 20 ㎝である。埋土は 10YR3/4 暗褐色砂質土１層である。遺物は、在地色の強い弥生時代中期壺(44)が出土した。

616　E16－f6 区で検出したピットで、北側は調査区外である。径 0.25m、深さ 8 ㎝である。埋土は 5GY4/1 暗オリーブ灰色１層である。遺物は、瓦器碗(45)、土師小皿(46)等が出土した。

487　E16－f7 区で検出した東西方向に長軸をもつ土坑で、平面形は隅丸方形を呈する。長辺７m、短辺 1.1m、深さ 20 ㎝である。埋土は 10YR3/4 暗褐色砂質土１層である。遺物は、瓦器碗(47)、瓦器小皿(48)、須恵器高坏蓋(50)等が出土した。

362　E16－f8 区で検出した土坑で、南側は調査区外である。平面形は不整形を呈する。検出長４m、幅 3.4m、深さ 30 ㎝である。埋土は 7.5Y5/2 灰オリーブ色粘質土(2.5Y5/6 黄褐色土混じる) １層である。遺物は、土師質鉢(51)、瓦質土器等が出土した。

622　E16－f7 区で検出した 2×4 間の建物を構成するピットである。掘立柱建物は桁行 1.6m、梁行 1.3m、床面積 19.6 ㎡である。柱堀方は 0.3～0.4 ㎝の隅丸方形あるいは円形で深さは 20～30 ㎝である。柱痕跡は確認されなかった。遺物は、ピット 622 から土師小皿(49)が出土した。

384　E16－e7 区で検出した土坑で、平面形は楕円形を呈する。長軸 0.9m、短軸 0.7m、深さ 20 ㎝である。遺物は須恵器坏身(52)等が出土した。

401　E16－e8 区で検出した土坑である。上面で井戸、ピット群が検出された。平面形は不整形で、深さ 10 ㎝

である。埋土は 2.5Y3/1 黒褐色砂質土１層である。遺物は須恵器坏身(53)、土師器甕(54)、砥石(55)、石庖丁(56)等が出土した。

426　E16－e8 区で検出した土坑で西側を 401 に切られる。平面形はほぼ二等辺三角形で長軸 2.6m、最大幅 2.0m、深さ 20 ㎝である。埋土は 5G4/1 暗緑灰色砂質土 1 層である。遺物は、須恵器坏蓋(57)、坏身(58)等が出土した。

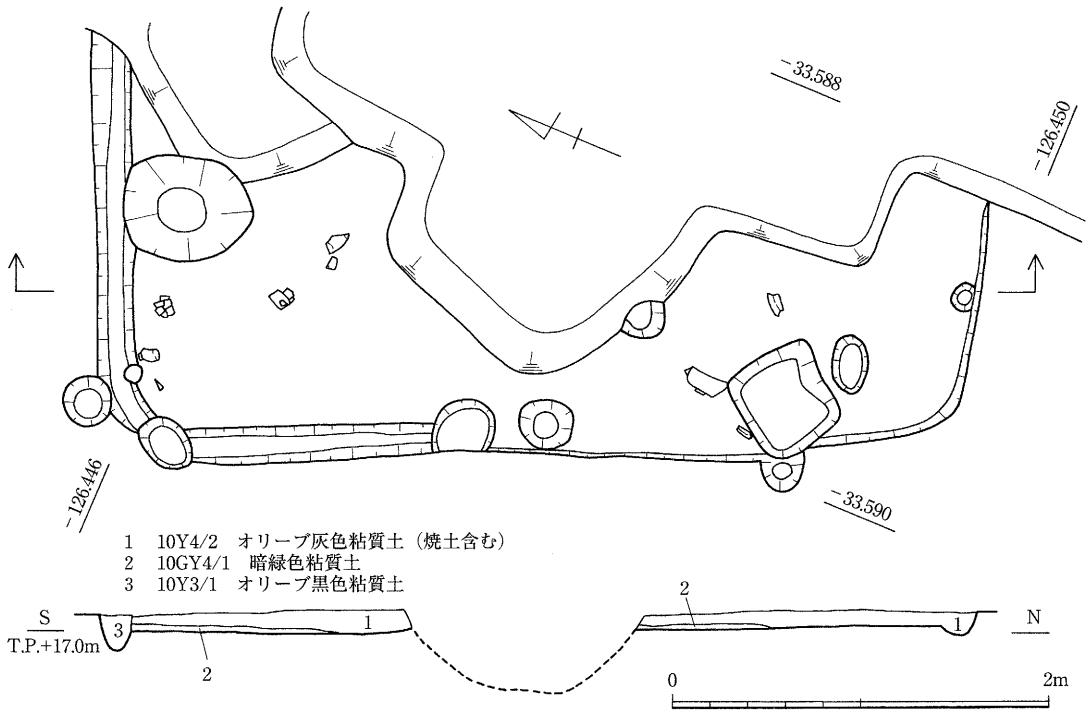
473　E16－f8 区で検出した落ちで、北肩のみ検出した。深さは 20 ㎝で、埋土は 7.5Y4/2 灰オリーブ色砂質土１層である。遺物は、土師器甕(59)等が出土した。

476　E16－f7 区で検出した落ちで、北側の肩のみ検出したが、472・487・657 に切られており、516 とつながる可能性も考えられる。深さ 20 ㎝で、埋土は 5Y4/2 灰オリーブ色砂質土１層である。遺物は、古墳時代の製塩土器(60)、須恵器高坏蓋(61)等が出土した。

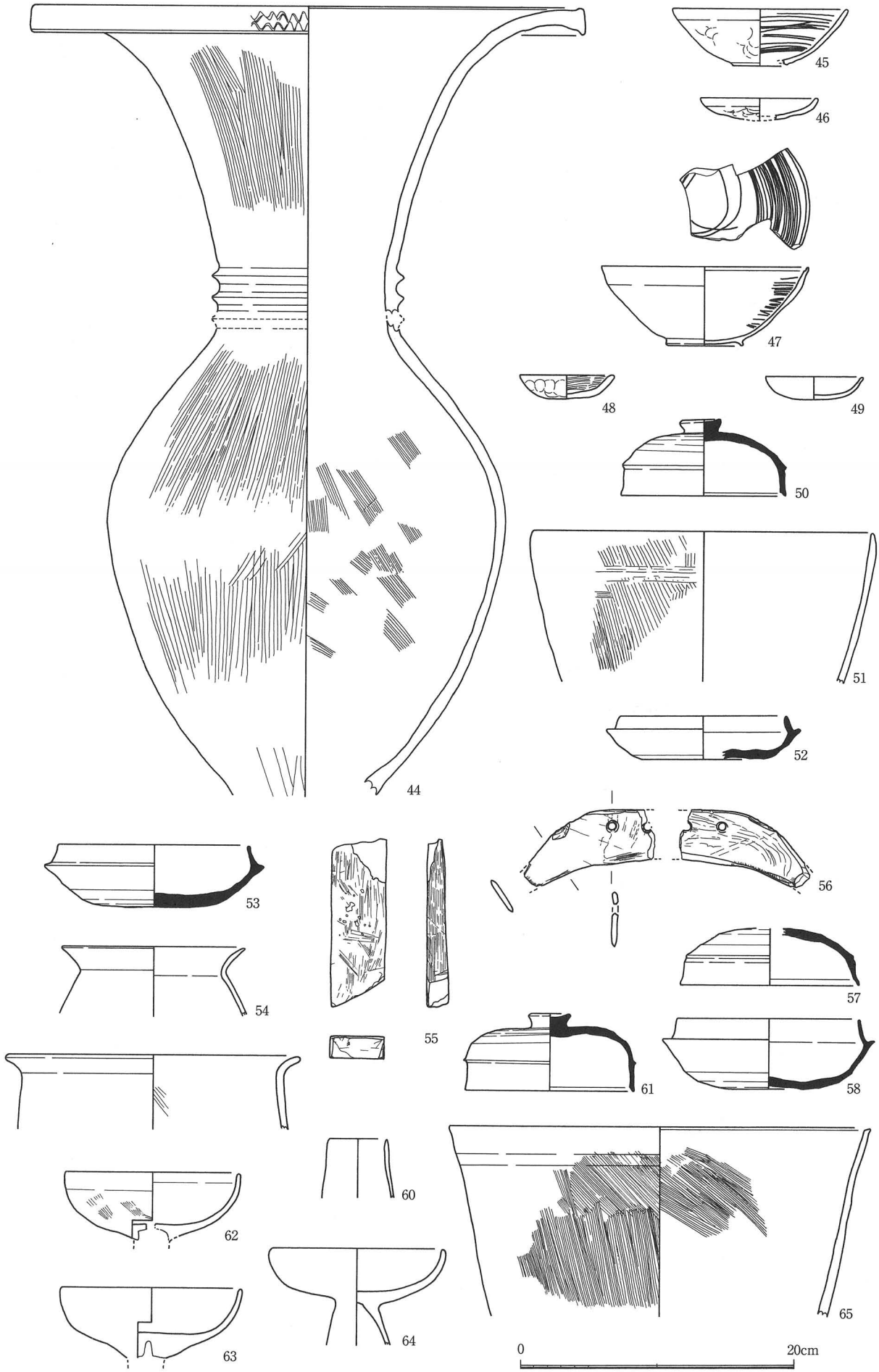
515　E16－f8 区で検出した落ちで、南側は調査区外、東は 472 に切られ、西側は 362 に切られる。深さ 12 ㎝で、埋土は 10Y3/1 オリーブ黒色砂質土１層である。遺物は、碗形の坏部をもつ高坏(62～64)、円筒埴輪(65)等が出土した。

516　E16－e6,7 区で検出した流路である。南北は調査区外に延びる。調査区南側では地形の高い部分があり、流路は２方向に別れる。高い部分では土坑・ピット群等が検出された。西側に別れた流路は 487 に切られる。最大幅 17mで、深さ 20 ㎝である。埋土は 7.5Y3/2 オリーブ黒色砂質土１層である。遺物は、須恵器坏蓋(66～69)、坏身(70～74)、高坏蓋(75、76)、高坏(77～79)、甕(80)、土師器小型壺(81)、甕(82～84)、製塩土器(85)、鉢(86、87)、高坏(88)等が出土した。

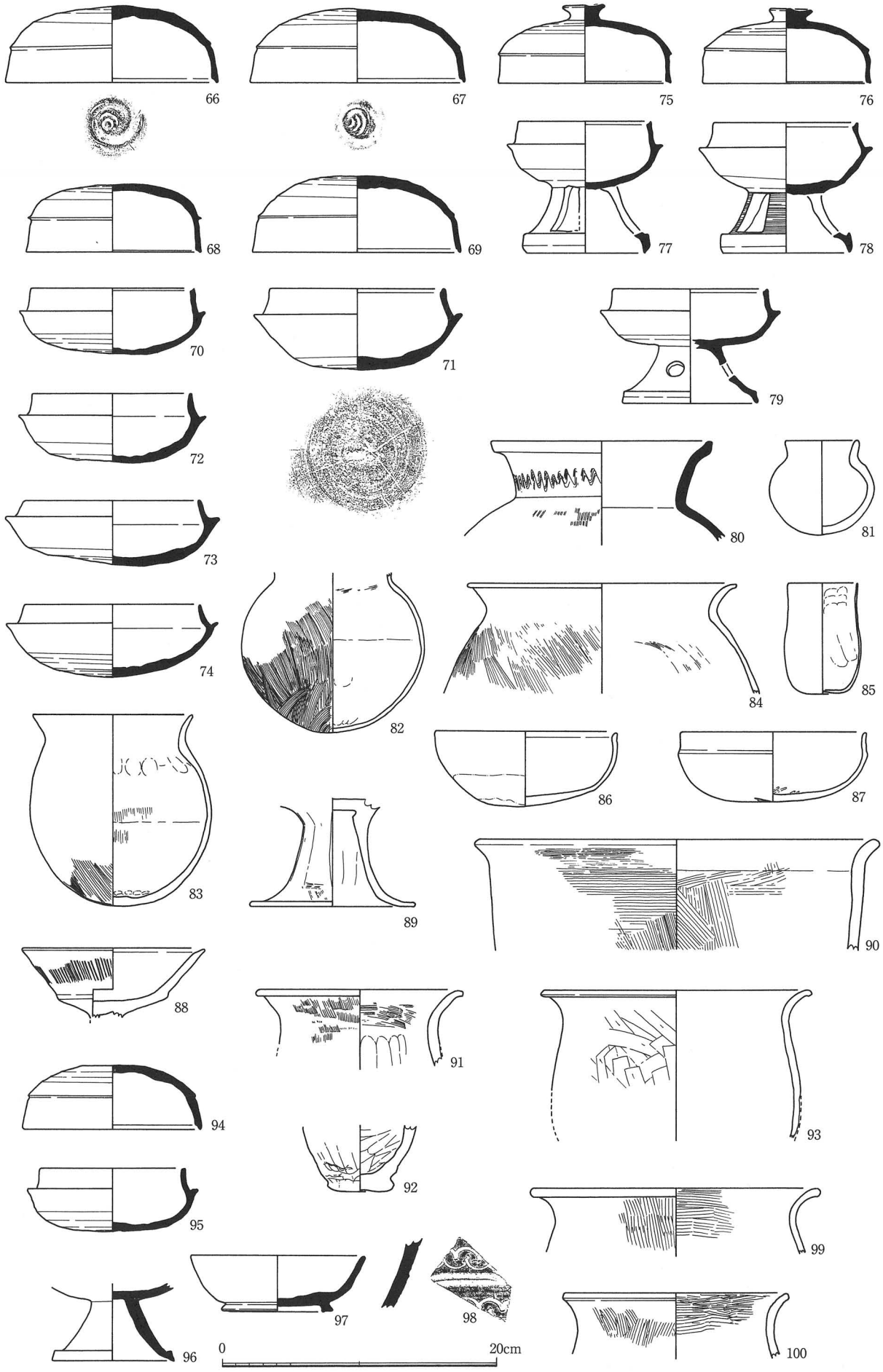
522　E16－f5 区で検出した土坑で、南側を 659 に切られる。平面形は不整長方形を呈する。深さは 10 ㎝である。遺物は、土師器高坏脚部(89)、円筒埴輪(90)等が出土した。



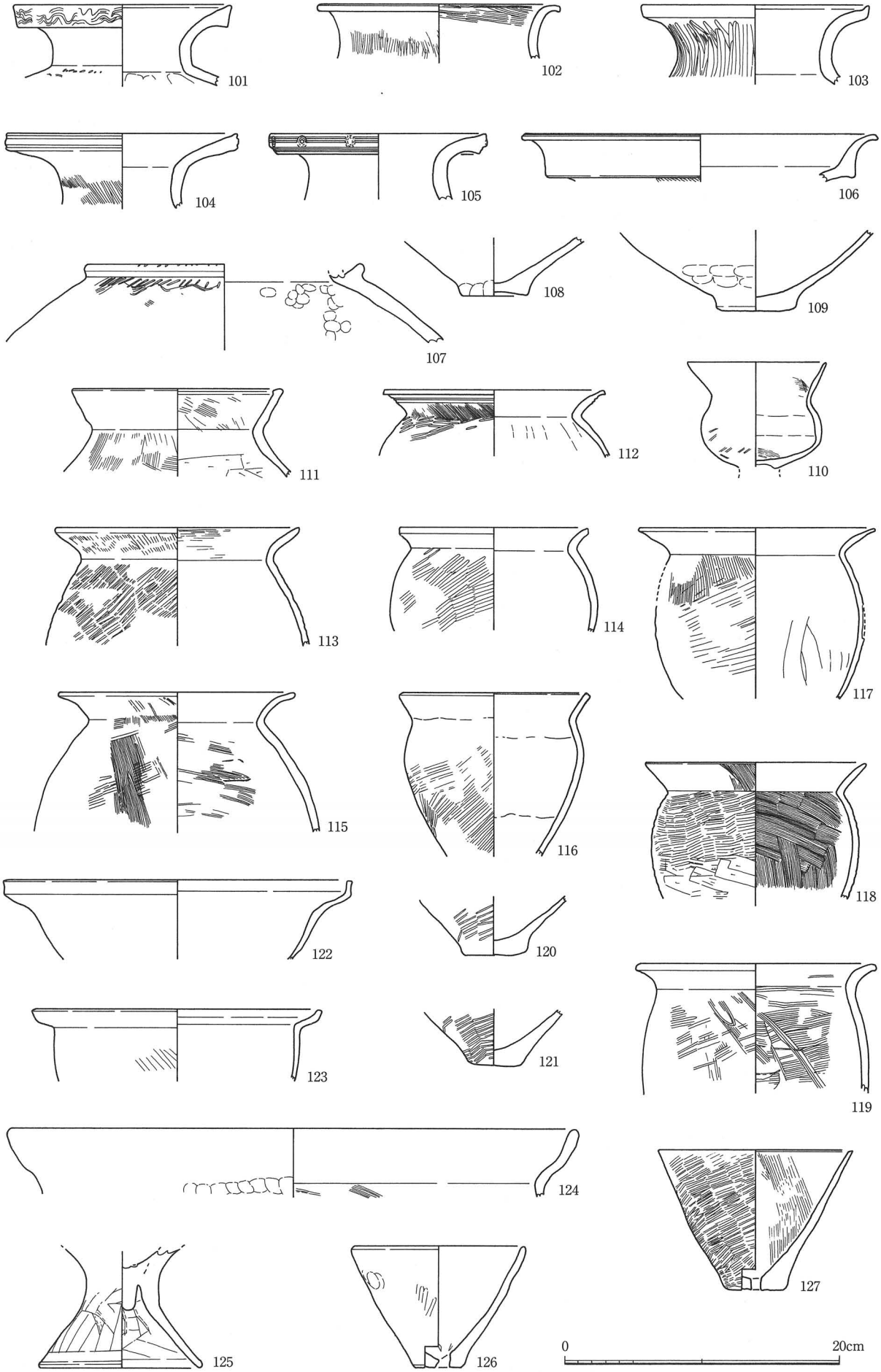
第７図　１区、竪穴住居（166）平面図・断面図



第8図　2区、遺物実測図・1



第9図　2区、遺物実測図・2



第10図、2区、遺物実測図・3

551　E16－f5 区で検出した溝で、北は 668 に切られ、南は調査区外である。検出長 5.2m、幅 2.2～3.4m、深さ 15 ㎝である。埋土は 10Y3/2 オリーブ黒色砂質土１層である。遺物は、土師器甕(91～93)等が出土した。

635　E16－e8 区で検出した円形のピットで、径 0.44m、深さ 10 ㎝である。埋土は 5GY3/1 暗オリーブ灰色１層である。遺物は、須恵器坏蓋(94)等が出土した。

639　E16－e8 区で検出した円形のピットで、径 0.26m、深さ 5 ㎝である。埋土は 5Y3/1 オリーブ黒色土１層である。遺物は、奈良時代の須恵器坏身(97)等が出土した。

642　E16－f8 区で検出した長円形のピットで、長軸 0.9m、短軸 0.8m、深さ 30 ㎝である。北側を 639 に切られる。埋土は 5Y3/1 オリーブ黒色＋2.5GY3/1 暗オリーブ灰色砂質土１層である。遺物は、須恵器高坏(96)等が出土した。

657　E16－f7 区で検出した円形のピットで、径 0.2m、深さ 30 ㎝である。埋土は 5Y3/1 オリーブ黒色土１層である。遺物は、須恵器坏身(95)等が出土した。

659　E16－f5 区で検出した方形の土坑で、北・西側を土坑・ピットで切られ、南側は調査区外である。深さは 20 ㎝、埋土は 2.5Y4/3 オリーブ褐色土１層である。遺物は、弥生土器甕(99)等が出土した。

668　E16－f5 区で検出した土坑で、南西側を攪乱に切られる。深さは 15 ㎝である。遺物は、弥生土器甕(100)等が出土した。

684　E16－f5 区で検出した不整長円形の土坑で、長軸 1.5m、短軸 1.2m、深さ 20 ㎝である。遺物は、須恵器器台(98)等が出土した。

第３面

614　E16－e4・5 区で検出した落ちで、調査区北側では西に大きく張り出し、中央部分から南北方向に直線で、東側に落ちる。上面では中世の溝・土坑・ピットが検出された。東肩は検出されなかった。深さは 10 ㎝で、埋土は 5Y5/2 灰オリーブ色砂質土１層である。遺物は、壺(101～105、107～109)、二重口縁壺(106)、甕(113～121)、鉢(122～124、126、127)、脚部(125)等が出土した。

３区　遺構面を２面検出した。他の調査区と較べて地形的に高く、包含層は薄いが、比較的良好な状況で第３面が検出された。

第２面

174　E16－e2 区で検出したほぼ円形の土坑で、径 2.0m、深さ 40 ㎝である。南側は攪乱で破壊されている。遺物は瓦器碗(128)等が出土した。

222　E16－e2 区で検出した円形のピットで、径 0.2m、深さ 15 ㎝である。遺物は瓦器碗(129)等が出土した。

227　E16－ｆ2 区で検出した円形のピットで、径 0.22m、深さ 17 ㎝である。遺物は、瓦器小皿(130)等が出土した。

175　E16－e3 区で検出した不整形の落ち込みである。南は調査区外、西肩は２区で南北方向に 3.5m延び、３区に向けて東西方向に４m、そこで 90°北へ 3.5m延び、90°曲がり東へ 4.5m、さらに 90°南へ向き調査区外となる。上面では、古墳時代～中世の土坑・溝・ピットなどが検出された。深さは 40 ㎝である。遺物は、須

恵器坏蓋(132)、坏身(133)、土師器甕(134、135)、碗形の坏部をもつ高坏(136～138)、高坏脚部(139～141)等が出土した。

316 E16－f3 区で検出した隅丸長方形の土坑で、長軸 3.8m、短軸 0.9～1.2m、深さ 20 ㎝である。埋土は 10Y4/1 灰色土１層である。遺物は、須恵器坏身(142)、甕(143)等が出土した。

310 E16－f3 区で検出した不整方形の土坑で、土坑とピットに大きく切られる。深さ 20 ㎝である。埋土は 10Y4/1 灰色砂質土１層である。遺物は、土師器甕(144)が出土した。

341 E16－e2 区で検出した隅丸長方形の土坑で、長軸 2.5m、短軸 0.4m、深さ 18 ㎝である。遺物は、土師器甕(146)、壺(147)が出土した。

324 E16－e2 区で検出した隅丸方形の土坑で、幅 1.0m、深さ 11 ㎝である。遺物は、土師器甕(153、154)等が出土した。

345 E16－e2 区で検出した落ちで、東に向かって落ち込み、遺構の大半が調査区外であるため、平面形等は明らかでない。深さ 14 ㎝を測る。遺物は、土師器高坏(148)、高坏脚部(151、152)、台部(149)、甕(150)等が出土した。

332 E16－e3 区で検出した楕円形のピットで、長軸 0.6m、短軸 0.4m、深さ 24 ㎝である。遺物は、須恵器甕(155)が出土した。

第３面

237 E16－ｆ2 区で検出した溝で南側は調査区外である。検出長２m、幅 0.6m、深さ 32 ㎝である。埋土は 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色＋10Y4/1 灰色砂質土１層である。遺物は、弥生土器壺(156～159)等が出土した。

226 E16－d3 区で検出した円形のピットで、径 0.3m、深さ 17 ㎝である。遺物は、弥生土器甕(161、162)等が出土した。

333 E16－f2 区で検出した円形の土坑で、東・西側は古墳時代から中世のピットに切られる。深さは 23 ㎝である。遺物は、弥生土器壺(163～165)等が出土した。

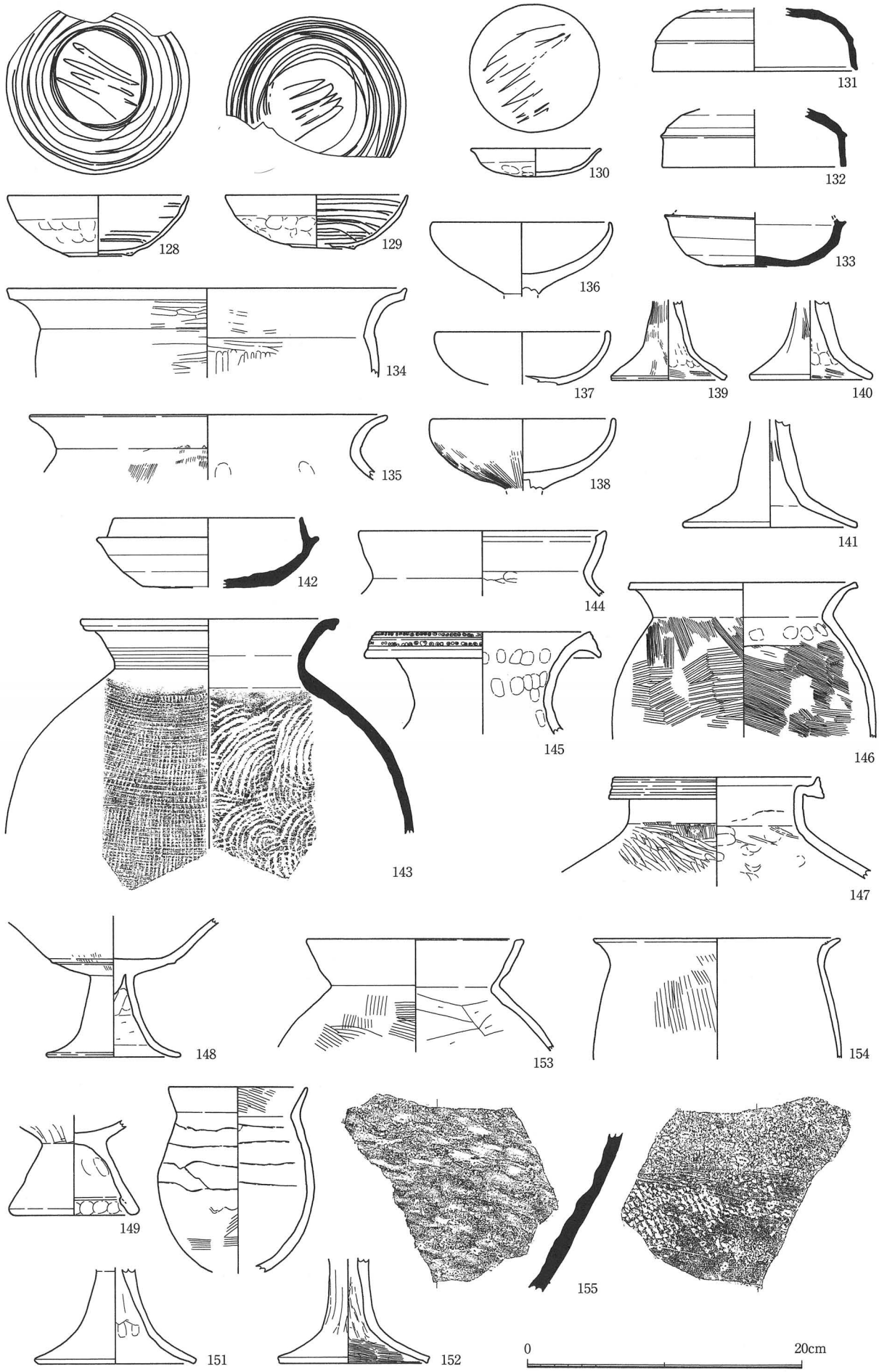
349 E16－e3 区で検出した円形のピットで、径 0.3m、深さ 27 ㎝である。遺物は、弥生土器甕底部(166)等が出土した。

238 E16－f2 区で検出した方形の土坑で、東側でピットに切られる。長軸 1.1m、短軸 0.44m、深さ７㎝である。埋土は 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色＋10Y4/1 灰色砂質土１層である。遺物は、弥生土器壺(167)が出土した。(168)は土師器鉢、(169)は土師器高坏坏部で、ともにE16－f3 区包含層からの出土である。包含層からは他に、須恵器・土師器等が多量に出土した。

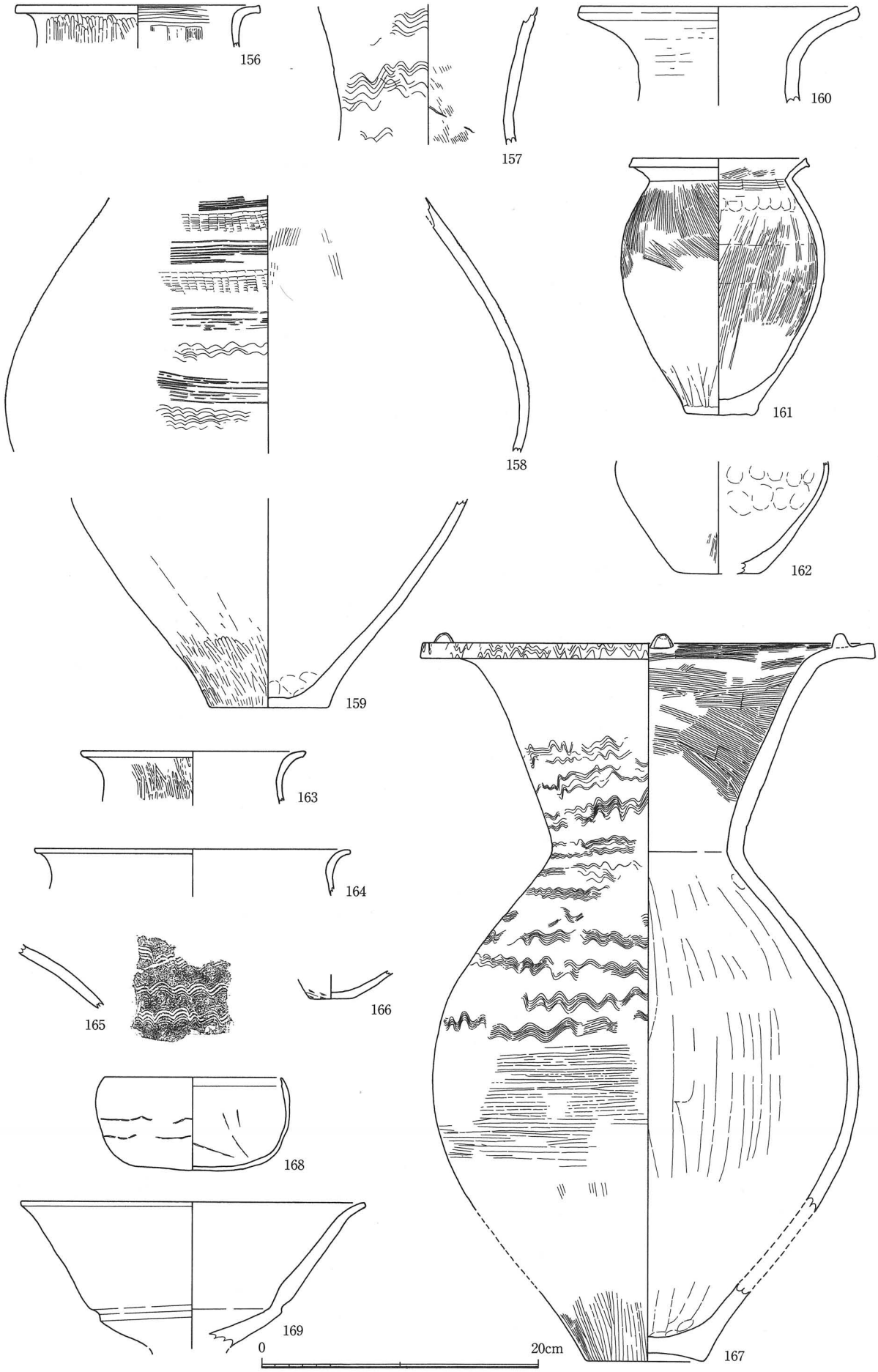
４区 遺構面を２面検出した。第２面が古墳時代から中世、第３面が弥生時代中期から布留式期である。

第２面

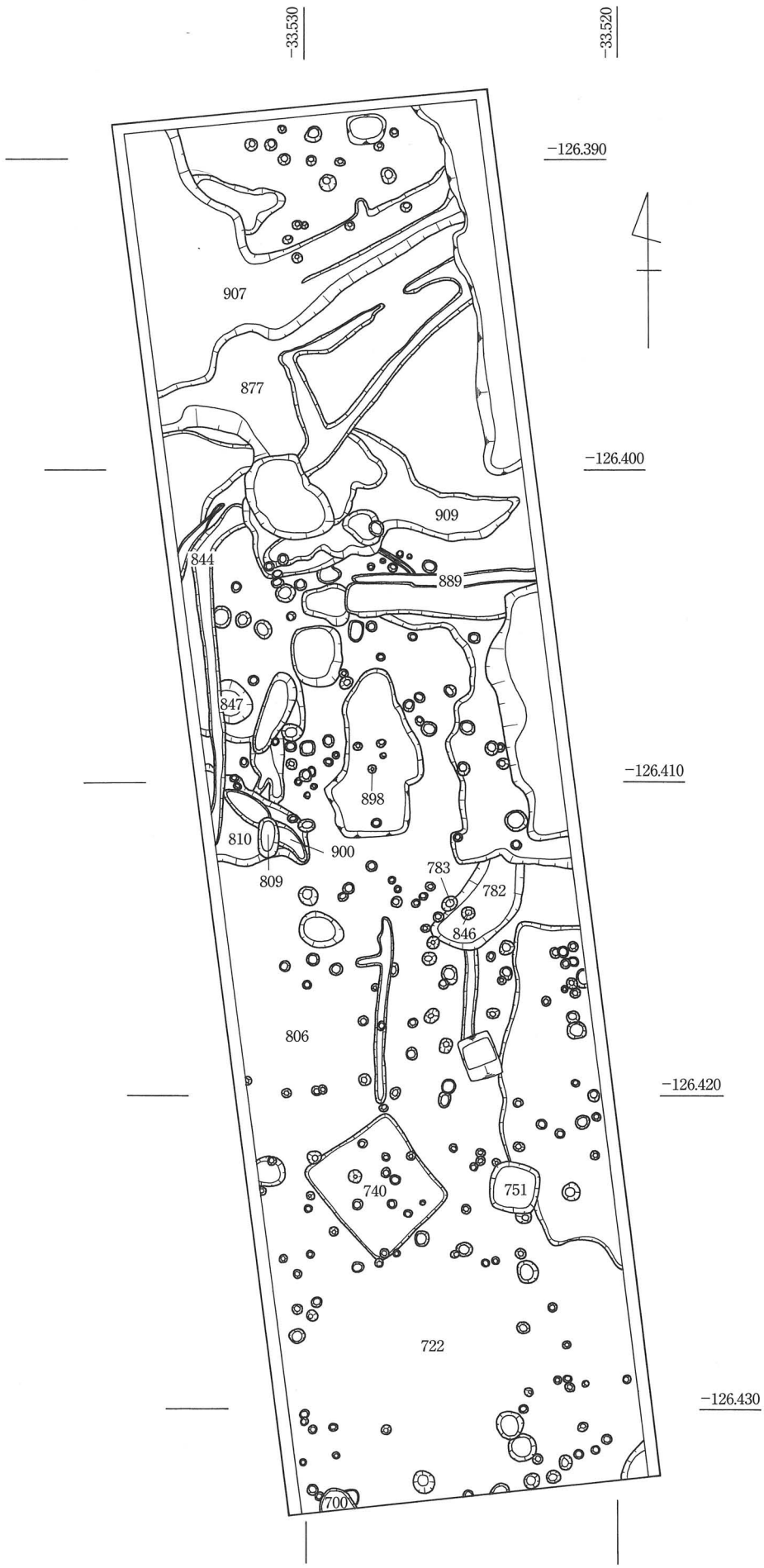
782 E16－c3 区で検出した南北方向の溝もしくは土坑で、北側を落ち込みで切られる。検出長 3.4m、幅 2.0 m、深さは 15 ㎝である。埋土は 5Y3/1 オリーブ黒色砂質土１層である。遺物は、瓦器碗(170)、土師小皿(171、172)、土師質鍋(173)等が出土した。



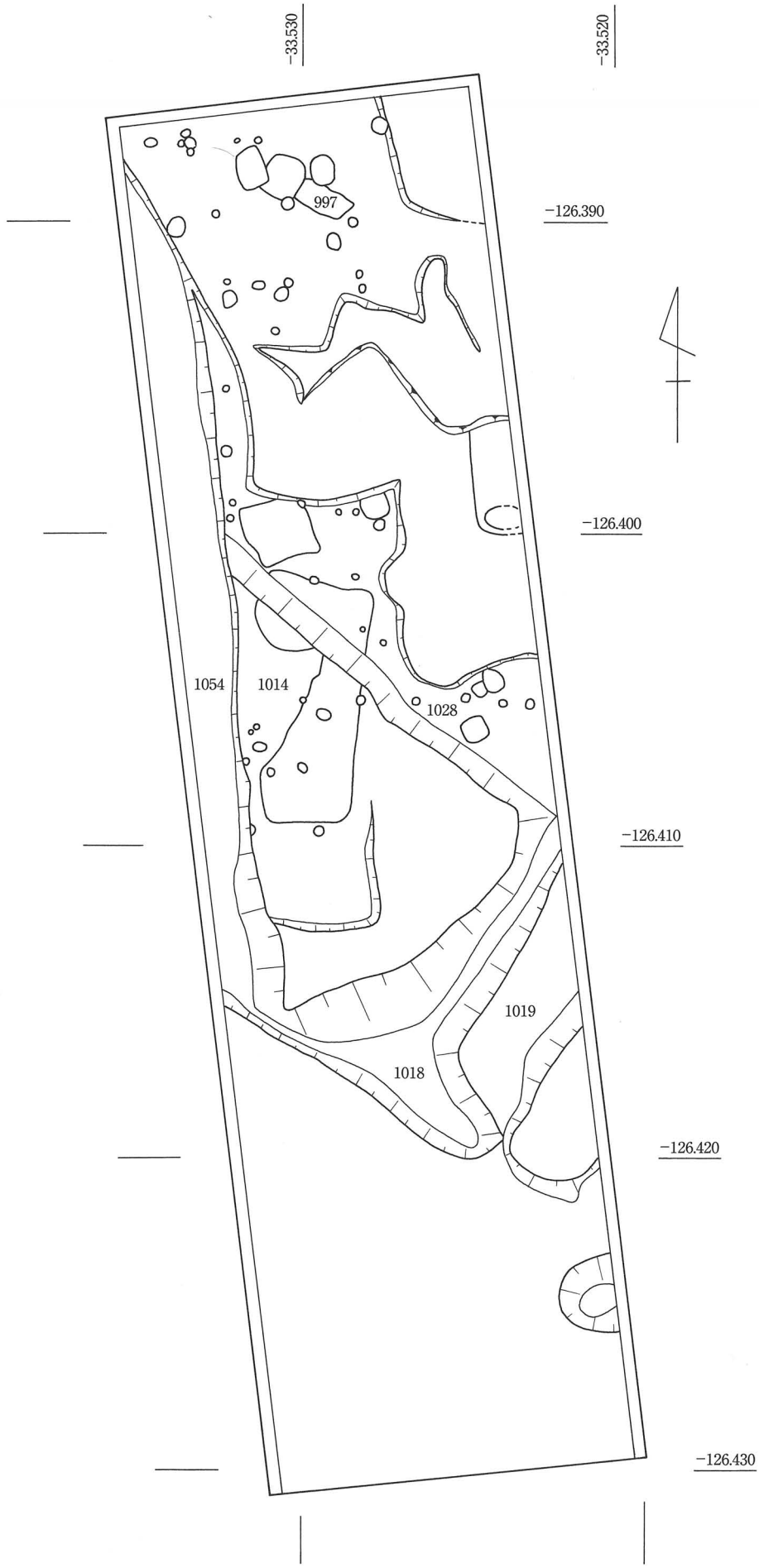
第11図　3区、遺物実測図・1



第12図　3区、遺物実測図・2



第13図　4区、第2面遺構全体図（S＝1：200）(00045)



第14図　4区、第3面遺構全体図（S＝1：200）(00045)

844　E16－b3 区で検出した溝で、調査区北東端から6mの位置から南西方向に直線で延びる。6mで1条分岐するが、検出長 12m、そこから南に方向をかえ9m延びる。幅 0.4m、深さ 20 ㎝である。埋土は 10GY3/1 暗緑灰色砂質土1層である。遺物は、瓦器小皿(174、175)、土師小皿(176～178)、白磁碗(179)等が出土した。

877　E16－a3 区で検出した北側への落ちで、本遺構が埋まった後溝 844 が掘削される。深さは 20 ㎝である。遺物は、瓦器碗(180～184)、土師小皿(185～188)、白磁碗(189)、瓦質羽釜(190)、瓦質蓋(194)等が出土した。

849　E16－b3 区で検出した隅丸方形の土坑で、長軸 1.6m、短軸 0.6～1.0m、深さ 25 ㎝である。埋土は 7.5Y3/2 オリーブ黒色砂質土1層である。遺物は、土師皿(193)等が出土した。

889　E16－b3 区で検出した東西方向の溝で、東側は調査区外、南肩は溝に切られる。検出長 5.8m、検出幅 0.3～0.4m、深さ 25 ㎝で、埋土は2.5Y3/1 黒褐色砂質土1層である。遺物は、瓦質羽釜(195)等が出土した。

907　E16－a3 区で検出した落ち込みである。深さは 20 ㎝、埋土は 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色粘質土1層である。遺物は、瓦器碗(197)、土師皿(198)、瓦質羽釜(199、200)等が出土した。

909　E16－a3 区で検出した落ち込みである。上面を土坑・溝・ピットに切られる。深さは 20 ㎝である。遺物は、瓦質羽釜(202)等が出土した。

700　E16－d3 区で検出した土坑で、南側は調査区外である。検出長0.8m、幅1.2m、深さ 20 ㎝である。埋土は2.5GY4/1 暗オリーブ灰色砂質土1層である。遺物は、土師器甕(203)、坏(204、205)等が出土した。

740　E16－c3 区で検出した方形の土坑で、本遺構が埋まった上面で、中世のピットが検出された。1辺 3.3～3.5m、深さ 13 ㎝である。埋土は 5Y3/2 オリーブ黒色砂質土1層である。遺物は、土師器甕(207、208)、高坏(209、210)、鉢(211)、鉄鏃(206)等が出土した。

751　E16－d3 区で検出した方形の土坑で、1辺 1.6m、深さ 14 ㎝である。埋土は 2.5Y3/1 黒褐色砂質土1層である。遺物は、土師器高坏脚部(212)等が出土した。

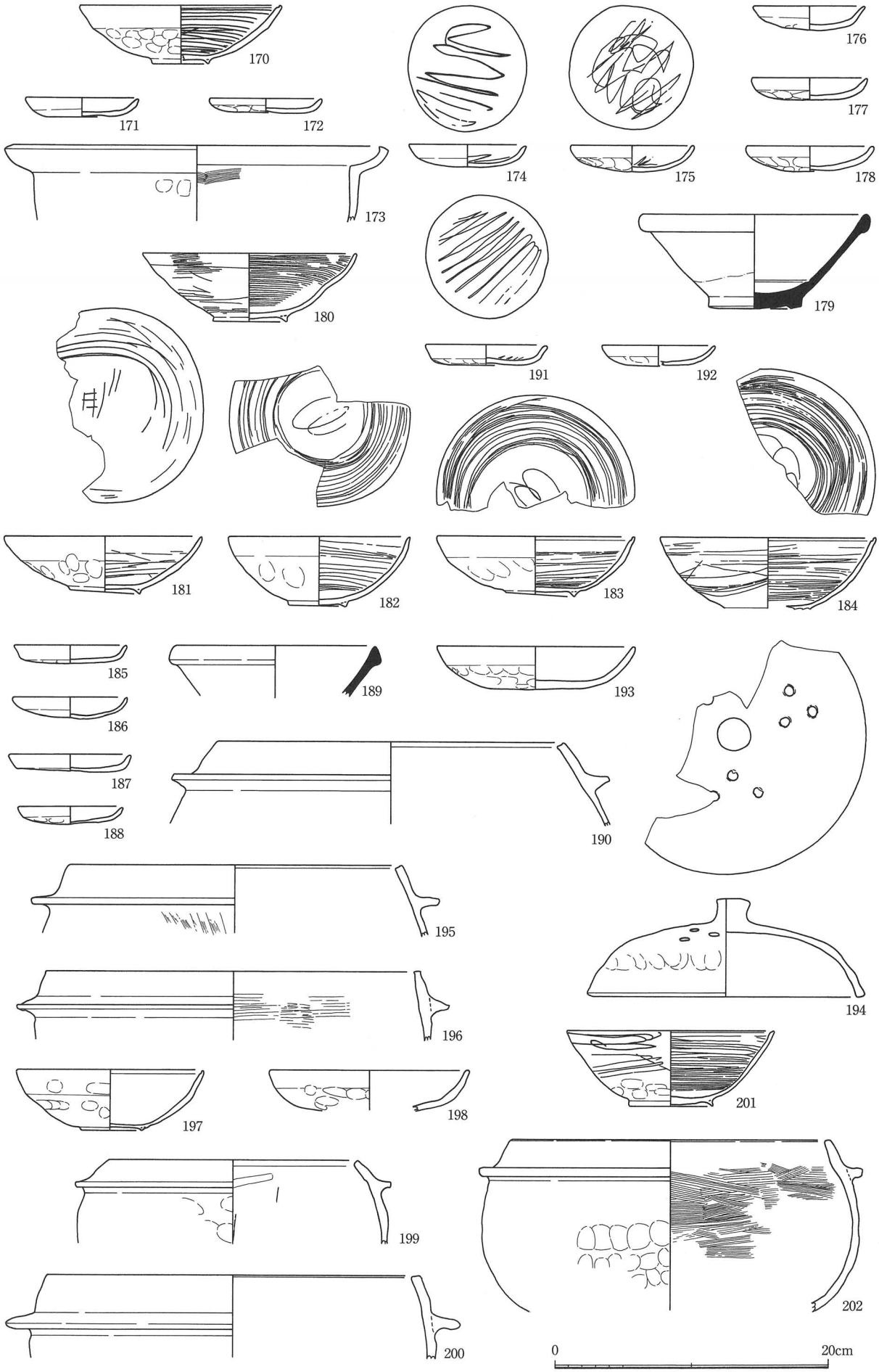
810　E16－b3 区で検出した不整形の土坑で、西側は調査区外である。深さは 22 ㎝で、埋土は 2.5Y4/2 暗灰黄色細砂1層である。遺物は、須恵器甕(213)、高坏(216)、土師器皿(221)等が出土した。

809　E16－b3 区で検出した南北に長軸をもつ隅丸方形の土坑である。長軸 1.3m、短軸 0.7m、深さ 20 ㎝である。埋土は10Y3/1 オリーブ黒色砂質土1層である。遺物は、須恵器平瓶(215)等が出土した。

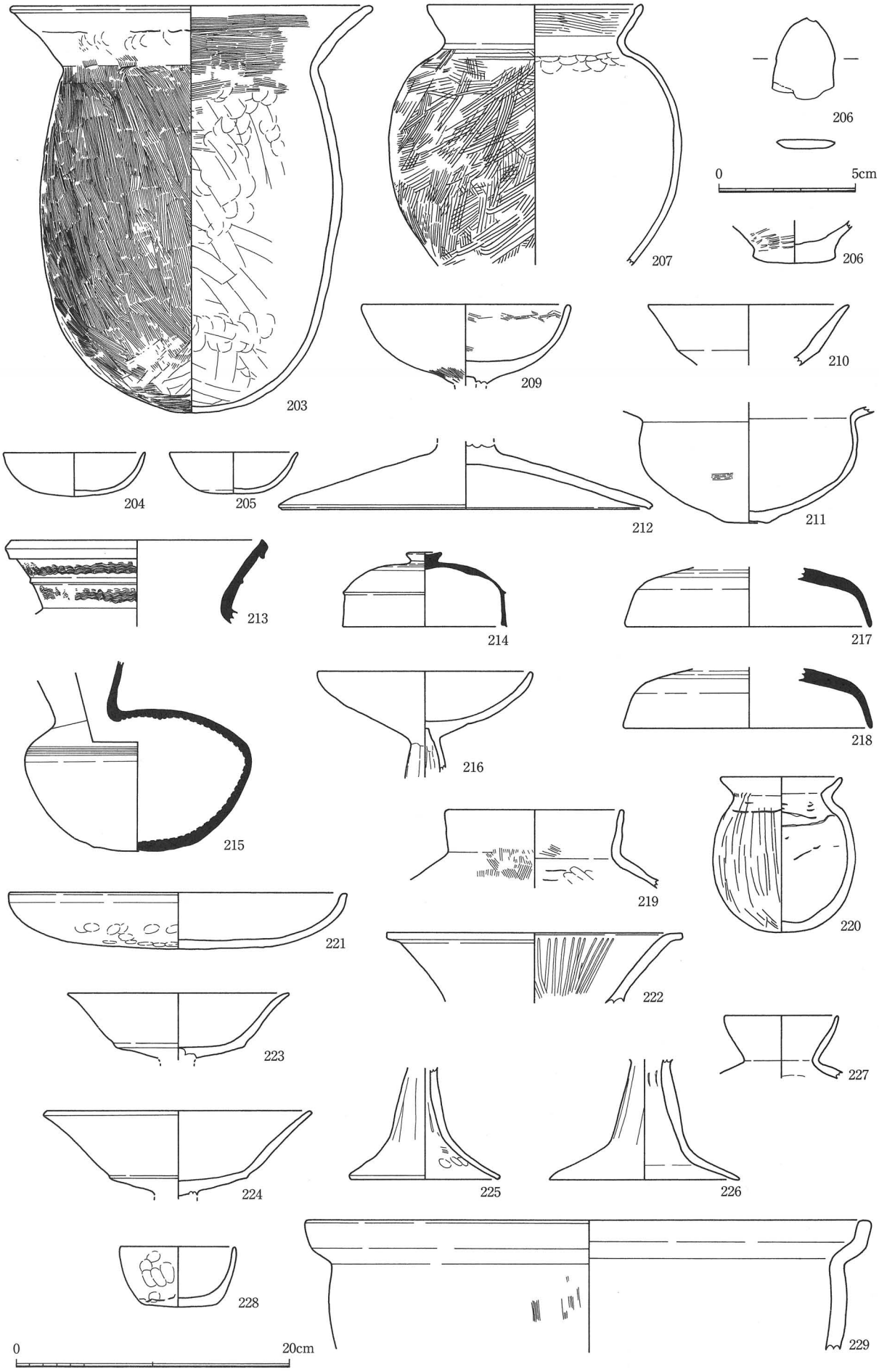
847　E16－b3 区で検出したほぼ円形の土坑で、西側は 844 に切られる。深さは 25 ㎝で、埋土は 10GY4/1 暗緑灰色粘質土1層である。遺物は、須恵器高坏蓋(214)等が出土した。

887　E16－a3 区で検出した南北に長軸をもつ土坑で、東側は調査区外である。長軸8.2m、深さ 20 ㎝である。遺物は、土師器壺(219、222、227)、甕(220)、高坏(224～226)、小型鉢(228)、鉢(229)等が出土した。

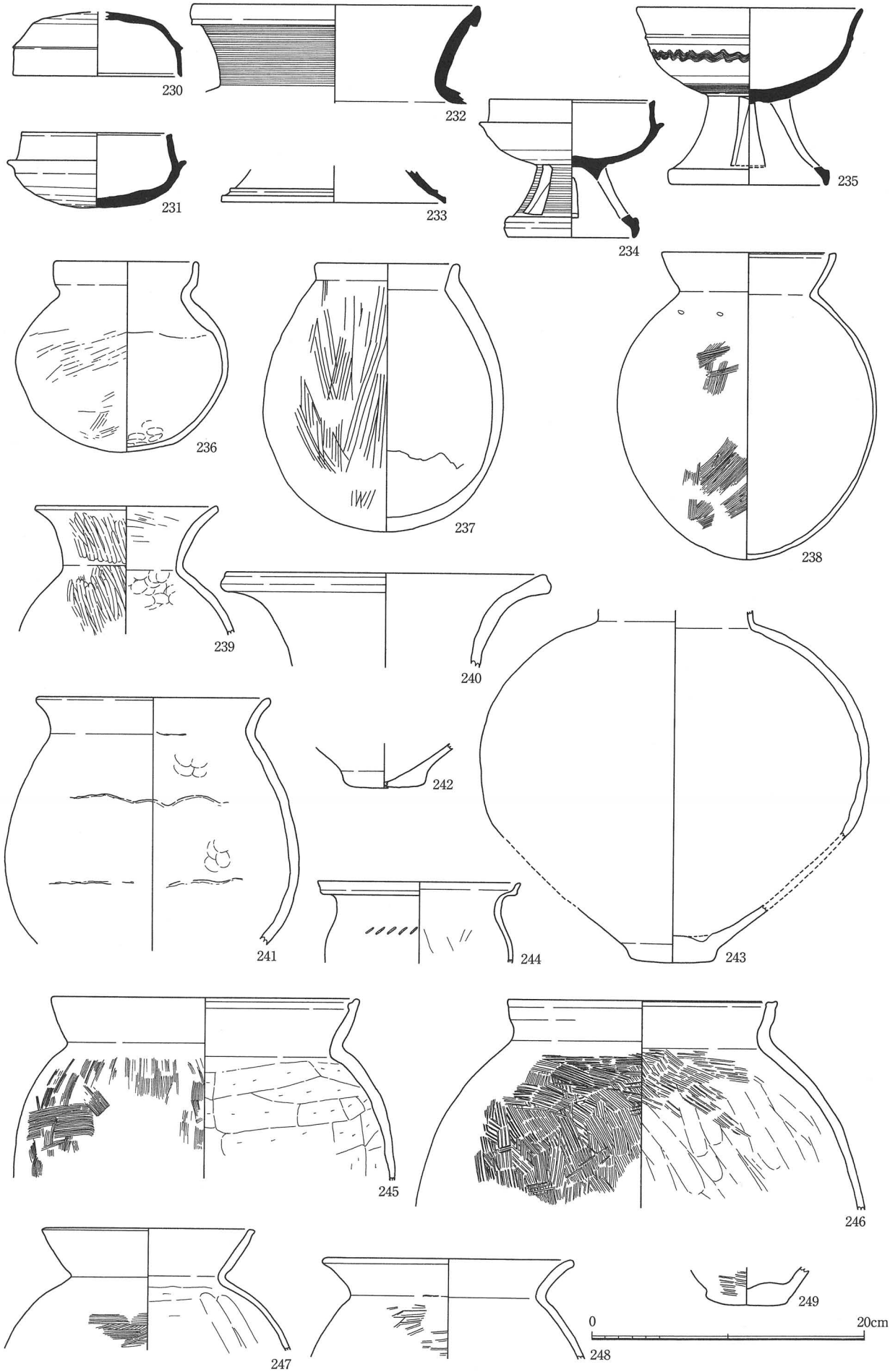
806・722・265(3区)**・266**(3区)　E16－c,d・3,4 区で検出した落ち込みである。埋土は 2.5Y3/1 黒褐色砂質土1層である。弥生時代後期から古墳時代後期の遺物が多量に出土した。遺物は、須恵器坏蓋(230)、坏身(231)、壺(232)、器台(233)、高坏(234、235)、土師器壺(236～243)、甕(244～250)、高坏(251～257、264)、小皿(260)、皿(261)、小型丸底壺(262)、鉢(263)等の土器が出土した。



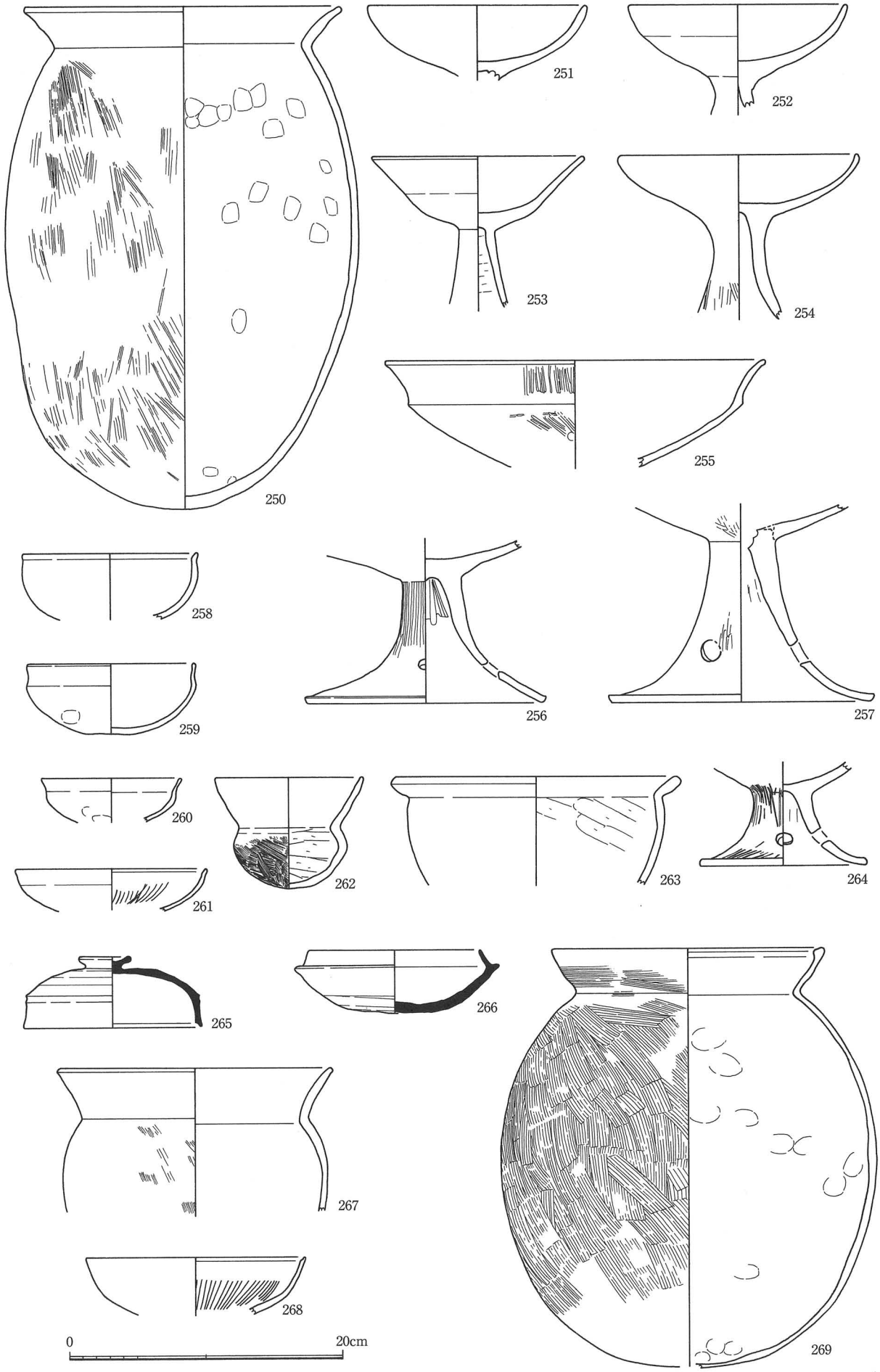
第15図　4区、遺物実測図・1



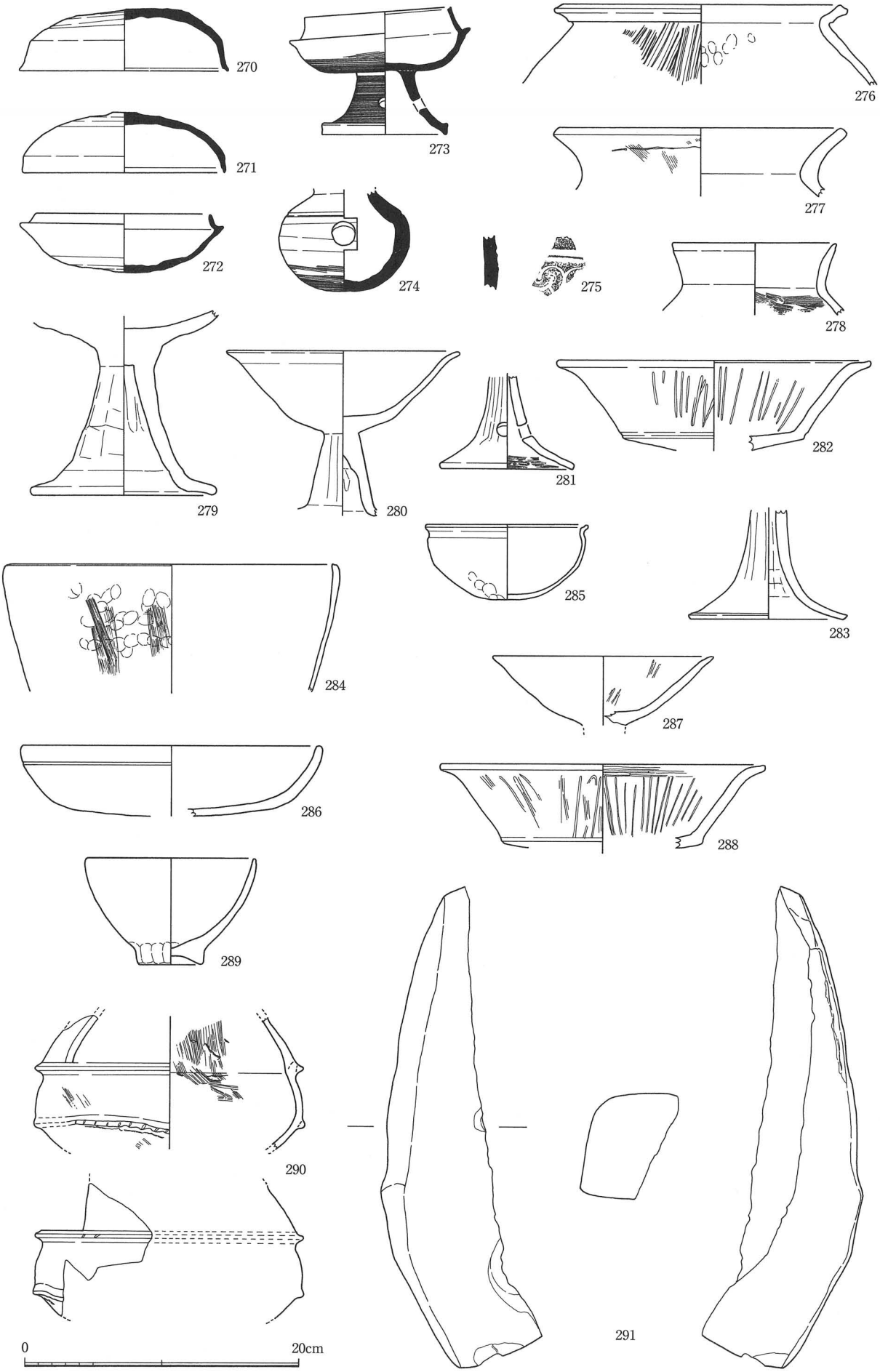
第16図　4区、遺物実測図・2



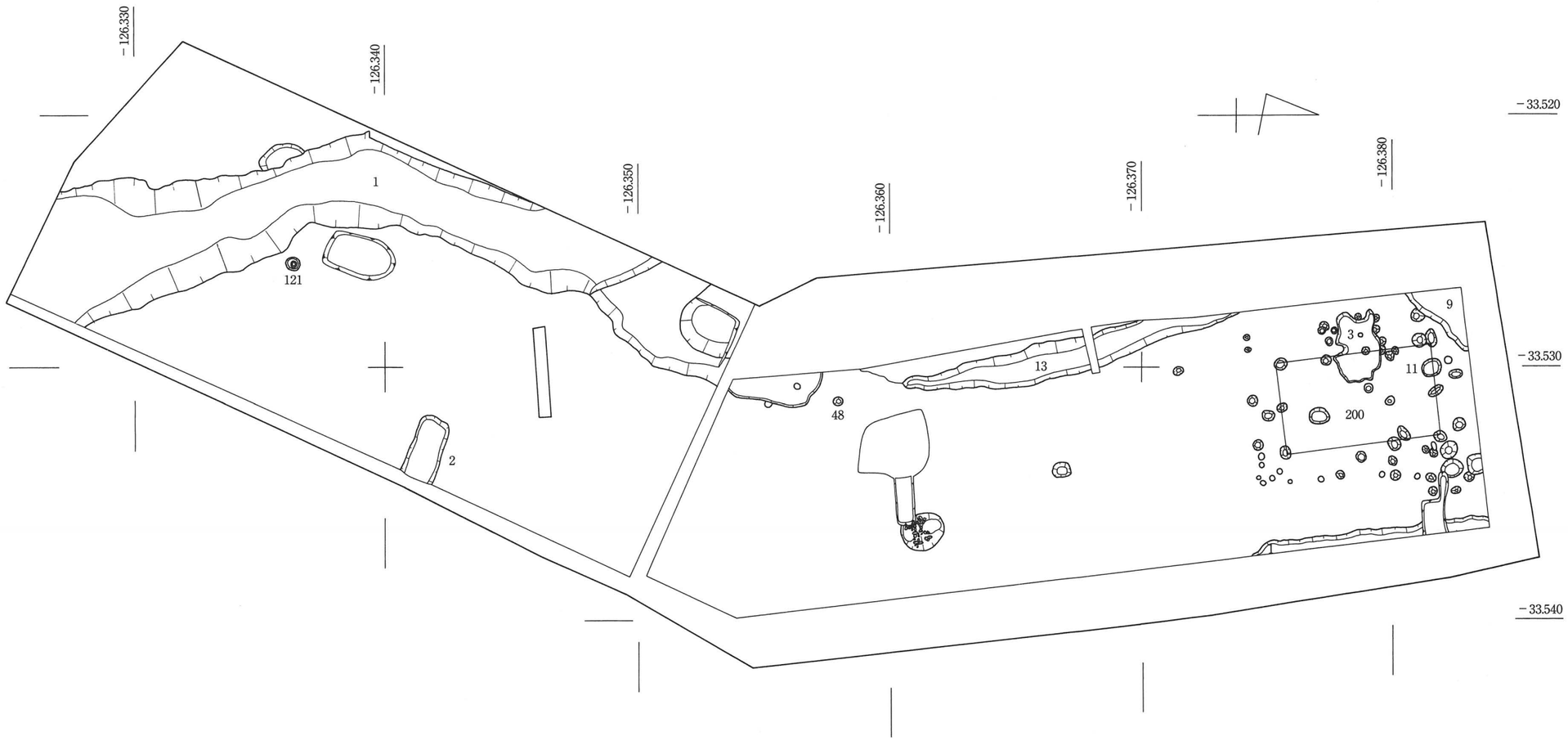
第17図　4区、遺物実測図・3



第18図　4区、遺物実測図・4



第19図　4区　遺物実測図・5



第20図　5・6区　第2面①②遺構全体図（S＝1：200）（01008）

第3面

1019　E16－b3 区で検出した落ちで、西側が高くなっている。深さは 30 ㎝である。遺物は、須恵器高坏蓋(265)、土師器甕(267)等が出土した。

1018　E16－b3 区で検出した落ちで、深さは30～40 ㎝である。遺物は、土師器甕(269)が出土した。

1028　E16－c3 区で検出した北西－南東方向の溝で、検出長 11.5m、幅 0.8m、深さ 10 ㎝である。遺物は、土師器坏(268)等が出土した。

1014　E16－b3 区で検出した深さ 10 ㎝の落ちで、本遺構埋土を掘削した後、土坑・ピットなどが検出された。遺物は、須恵器坏蓋(270、271)、坏身(272)、高坏(273)、甕(274)、器台(275)、土師器甕(276～278)、高坏脚部(279～283)、鉢(284)、坩堝(285)、皿(286)等が出土した。

997　E16－d3 区で検出した方形の土坑で、長軸 1.7m、短軸 0.8m、深さ 17 ㎝である。埋土は 7.5Y4/2 灰オリーブ色砂質土１層である。遺物は、土師器鉢(289)、手焙(290)等が出土した。

1054　E16－b,c・3 区で検出した土坑で、東は調査区外である。検出長 23.5m、深さ 70 ㎝である。遺物は、土師器の高坏(288)等が出土した。

898　E16－b3 区で検出した円形のピットで、径 0.31m、深さ 24cm である。埋土は 7.5Y4/2 灰オリーブ色砂質土１層である。(291)は、検出面から 10 ㎝ほど埋まり、25 ㎝ほどが直立した状態で検出された。材質はひん岩。

5区　遺構面は3面検出した。

第1面　土坑・井戸・溝などを検出したが、近・現代の遺構面である。

第2面－①

3　D16－h3 区で検出した不整形の土坑である。東西 2.5m、南北 1.8m、深さ 13 ㎝を測り、断面形は皿形を呈する。埋土は暗オリーブ灰色土(0.2～3 ㎝の礫含)1 層である。遺物は、瓦器碗(293、294)、瓦器小皿(297、298)、土師小皿(295、296)土師皿(299)等が出土した。

9　D16－i3 区で北西肩のみ検出した、土坑である。断面形は碗形を呈し、深さ 25 ㎝を測る。埋土は 2 層に大別でき上層が灰オリーブ色土、下層はオリーブ黒色土層である。遺物は、瓦器碗(302～304)、瓦器小皿(305)、土師小皿(306、307)、土師皿(308)等、下層から多量の遺物が出土した。

1　D16－I・h4 区で検出した溝で、溝の東肩を検出した。検出長 9.5m、断面形は浅い皿形を呈し、深さ 15 ㎝を測る。埋土は暗オリーブ灰色シルト層１層である。遺物は瓦器碗・小皿、土師小皿等が出土した。

11　D16－i4 区で検出したピットである。平面形は１辺 0.7mの方形。断面形は皿形を呈し、深さ 20 ㎝を測る。埋土は灰白色礫層１層である。遺物は土師小皿(292)等が出土した。

ピット群　D16－I・h,3・4 区で平面形が 0.2～0.6mの円形のピットを検出した。いずれのピットも柱痕跡は確認できなかった。深さは 20～35 ㎝で埋土はいずれも 1 層、暗灰黄色土(暗黄灰色砂質土ブロックで混じる)である。遺物は瓦器と土師器の小片が出土した。

13　D16－f～h3 区で検出した土坑である。西肩のみを検出した。検出長 19mで、東は攪乱で切られる。断面

形は皿形を呈し、深さは 24 ㎝である。埋土は灰オリーブ色微砂と灰色砂質土２層に大別できる。遺物は瓦器、土師器の小片が出土した。

第２面－②

第３層下面(調査区南側(I・h,3・4 区)と北側(f4 区))でピット群を検出した。 f4 区のピット 48 からは完形の瓦器碗(13 世紀後半)が出土した。I・h,3・4 区で検出したピット群のなかで、建物を構成すると考えられるのは１棟(建物 200)である。

200 D16－h3 で検出した２×３間の掘立柱建物で、柱間寸法は 1.8～2.4m、柱堀方は 30～40 ㎝の円形で、深さは20～25 ㎝である。埋土は暗オリーブ灰色粘質土１層で柱痕跡は確認できなかった。

48 径 38 ㎝の円形のピットで、深さは 35 ㎝で、埋土は暗灰黄色土 1 層である。図化することはできなかったが、埋土から完形の瓦器碗(13 世紀後半)が出土した。

第 2 面－①は、6 区から続く自然流路とピット群が検出されたが明確に建物を構成するピットは確認できなかった。出土遺物から判断すると 13 世紀後半から 14 世紀代が相当する。第２面－①は、調査区南側で建物 1 棟とピット群を中央部は遺構が希薄となり北側で 3 基のピットを検出した。6 区では第 3 層の堆積はなく、第 3 面に相当する遺構面も確認されなかった。ピット 48 では完形の瓦器碗が出土しており集落の北端の可能性が考えられる。時期は第２面－①と大きく隔てることはなく、13 世紀後半が相当する。

6 区 遺構面は２面検出した。

第１面 第１面の遺構は、土坑・溝などが検出された。ため池の下面であり、近・現代の遺構と考えられる。

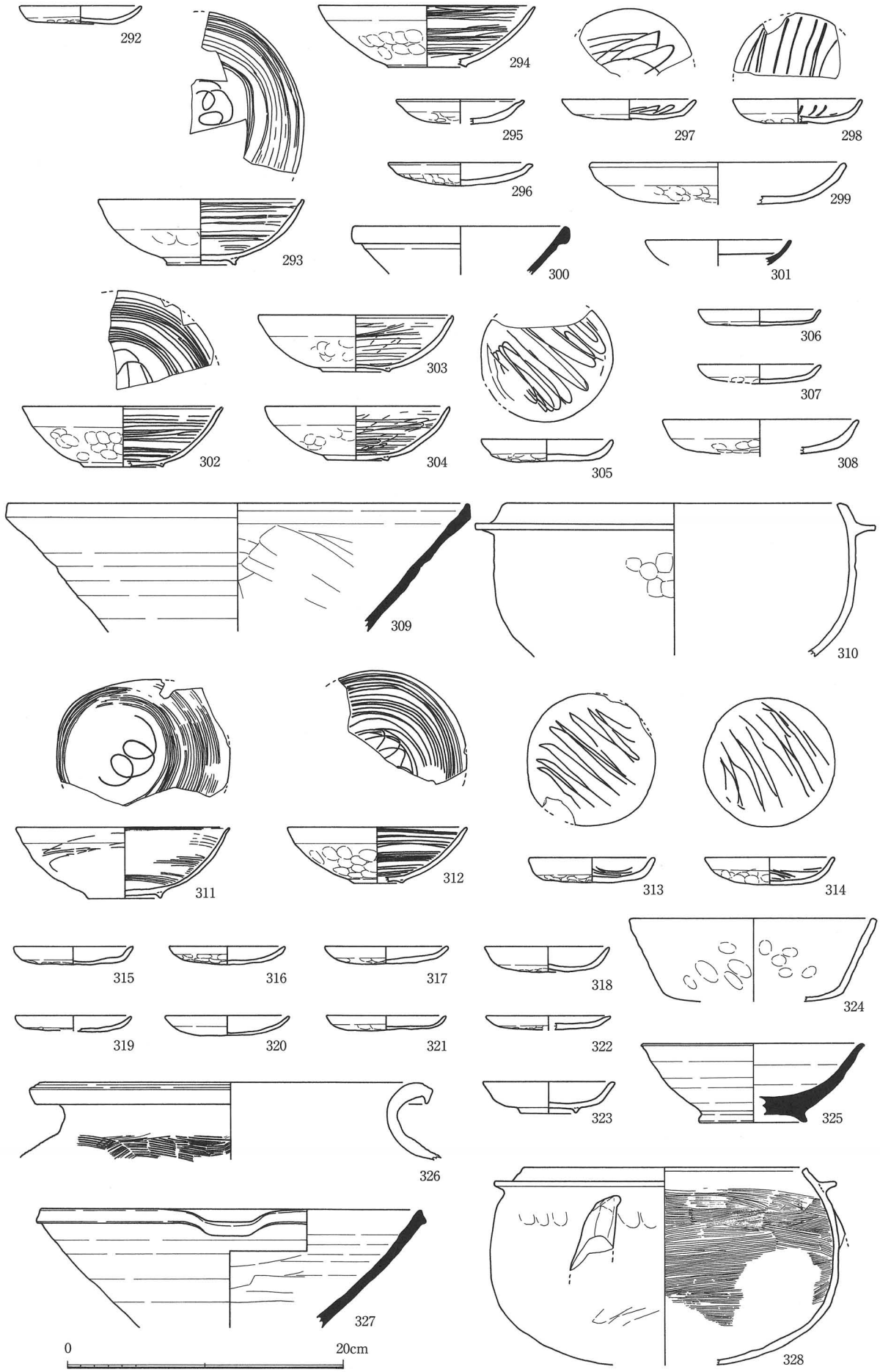
第２面 自然流路・土坑等を検出した。

1 D16－c～e3 区で検出した、自然流路である。検出長 16m で北西から南東へ緩やかな弧状を呈する。幅 3～4m を測る。断面形は碗形を呈し、深さは 80 ㎝である。埋土は上層が灰オリーブ色シルト(3～5 ㎝の礫含)層、下層が灰色粘質土(Mn 含)層の 2 層に大別できる。遺物は、瓦器碗(311、312)、瓦器小皿(313、314)、土師小皿(315～322)、台付土師小皿(323)、瓦質甕(326)、土師質鉢(324)、白磁碗(325)等、ほとんど上層の灰オリーブ色シルト層から出土した。

2 D16－e4 区で検出した、土坑である。西側は調査区外。平面形は東西検出長 2.5×南北 1.4m の隅丸長方形を呈する。断面形は皿形を呈し、深さ 20 ㎝を測る。埋土はオリーブ黒色砂礫(1～2 ㎝の礫含)層 1 層である。遺物は土師器小皿、瓦器碗等が出土した。

121 D16－d3 区で検出した、ピットである。平面形径 0.6m を測る円形。断面形は碗形を呈し、深さ 30 ㎝を測る。埋土は灰オリーブ色砂礫層(約４㎝の礫含)1 層である。遺物は土師質小皿等が出土した。

第 2 面で検出した自然流路は、北側から張り出す段丘裾に北西から南東にかけて流れる。埋土は 2 層に分かれるが、堆積状況は、人為的に埋め戻した状況を呈している。ため池となる前は、谷部を埋め立て耕作地として利用していたのであろう。自然流路出土遺物は13～14 世紀代であるため、耕作地利用も当該期と理解される。須恵器摺り鉢(327)と瓦質羽釜(328)は第２層出土遺物である。



第21図　5・6区　遺物実測図

4　まとめ

今回の調査で確認された遺構について、周辺の遺跡の動向から時期ごとに記述する。

弥生時代　1～4区で弥生時代の包含層と遺構が確認された。検出した遺構は土坑、溝等であり、遺物は、少量の中期前半から中葉の在地産を主体とした壺・甕等、粘板岩製の石庖丁が出土したにとどまる。この時期の当遺跡の性格を明らかにする資料としては不足しているが、安満遺跡を南に望み、紅茸山遺跡と同じ尾根状地形末端部に立地することから、紅茸山遺跡を造り出す端緒となった小規模な遺跡と考えられる。

古墳時代　1～4区で包含層と遺構が確認された。検出遺構の時期は、前期と中期の2時期に大別することができる。

前期の遺構は2区の東側と3・4区を中心に広がり、遺物も多量に出土するが、明確な遺構は3区で検出された溝、井戸以外には少ない。2区 614 の落ち込みは弥生時代末～庄内期、それ以外は3・4区で検出された遺構で布留期に下る。

中期の遺構は1～4調査区全域で検出された。1区では、2基の竪穴住居が検出され、その内の1基はため池改修時の取水塔建設で東側2分の1以上を破壊され、他の竪穴住居は調査の範囲外に4分の3以上が存在するため、何れも全貌は不明であるが、一辺4～5mを測る方形の竪穴住居と考えられる。竪穴住居 166 の床面からは韓式系土器、土師器甕等が出土したが、須恵器は出土しなかった。

2区中央部で検出した自然流路と考えられる 516 は幅 16mを測るが、深さ 0.2mと浅く、檜尾川の旧流路ではなく分流と考えられ、その左岸（東側）では、水辺の祭祀の様相を示すかのように須恵器高坏・坏が蓋身セットで数点以上出土した。またここから 25m東に離れた3区の土坑 175 からは、これと同時期の組み合わせに土師器高坏を加えて出土した。出土した須恵器坏蓋の外面天井部に朱彩のあるものが数例出土した。

出土する遺物はほぼこの時期に限られ、5世紀末～6世紀初頭の集落の一端およびその周辺の施設を検出したものと考えられる。

古代　飛鳥時代以降平安時代までの古代にかかる遺構、遺物の出土は少ない。4 区中央部で検出した土坑 809 から出土した平瓶および包含層等から出土した少量の須恵器、土師器を観察する程度である。

中世　1～6区調査区全域に包含層と遺構が検出された。遺物は 13～14 世紀代を中心に大量に出土した。遺構は土坑・ピット・自然流路等である。ピットは多数検出されたが、明確に建物を構成すると考えられるのは2区 622 と5区 200 である。調査区周辺では、現段階で当該期の集落は確認されていない。6区で検出された自然流路は、13 世紀後半には人為的に埋め立てている状態が観察され、上層に耕作土が堆積していたことから、14 世紀代以降は、耕作地として利用されるようになったものと思われる。

今回の調査成果は、安満山南麓の段丘裾に弥生時代中期から小規模ながら集落が出現し、古墳時代後期まで集落は継続、古代で遺構・遺物が希薄となるが13 世紀以降再び開発されていった状況が確認された。

報告書抄録

ふりがな	べにたけやまみなみいせきはっくつちょうさがいよう
書名	紅茸山南遺跡発掘調査概要
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	井西貴子・山上弘
編集期間	大阪府教育委員会　文化財保護課
所在地	〒540　大阪府大阪市中央区大手前２丁目　TEL　06(6941)0351
発行年月日	西暦　2002年３月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
べにたけやまみなみいせき 紅茸山南遺跡	たかつきしあまきたのまち 高槻市安満北の町		191	34 51 35	135 38 00	平成12年 12月～ 平成13年 ３月	1,600	ため池改修工事
						平成13年 ７月～ 平成14年 ３月	720	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
紅茸山南遺跡	集落遺跡	弥生時代 古墳時代 中世	竪穴住居・掘立柱建物・溝・土坑・ピット・自然流路	弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・陶磁器他	古墳時代の竪穴住居検出

紅茸山南遺跡発掘調査概要

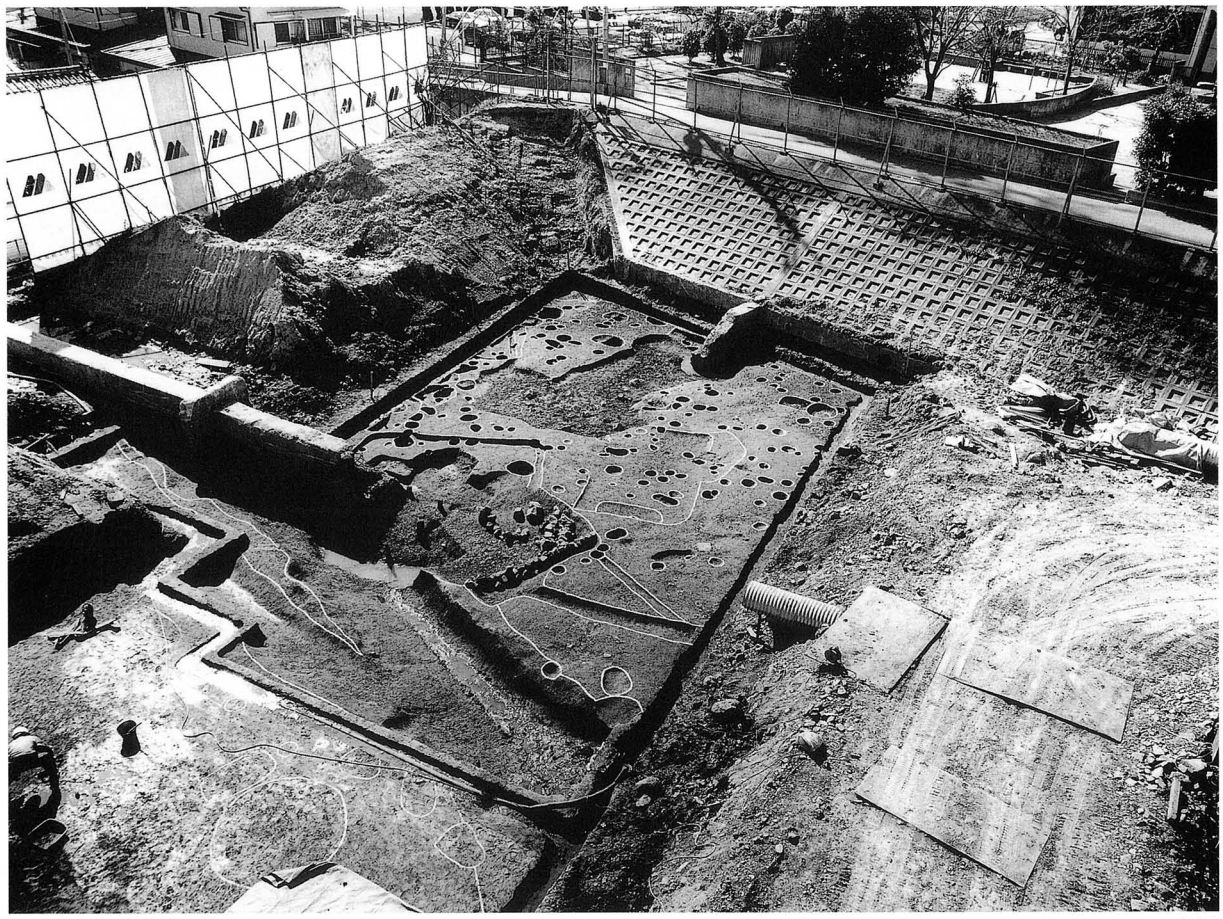
発　行　大阪府教育委員会
〒540-8571
大阪市中央区大手前２丁目
TEL　06-6941-0351

発行日　2002年３月29日

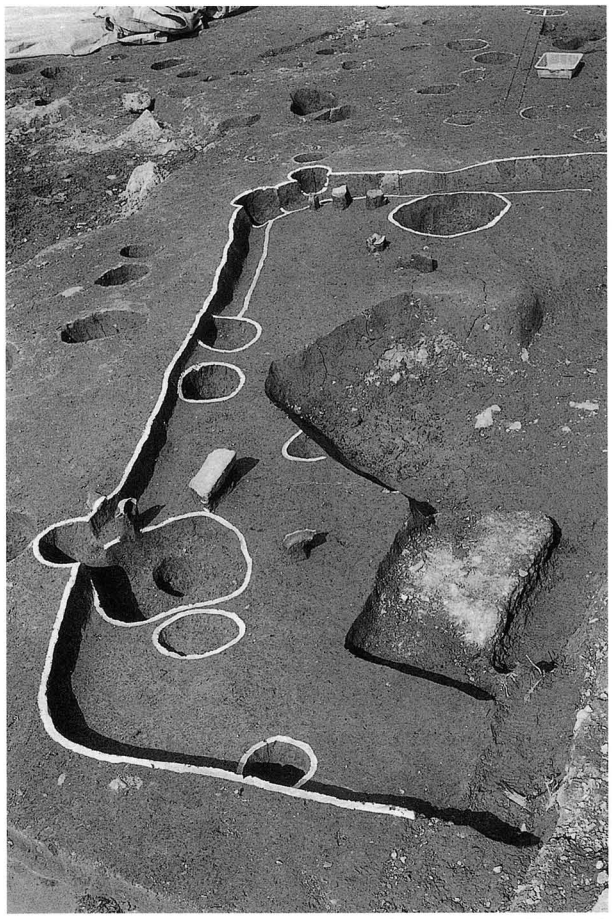
印　刷　(株)中島弘文堂印刷所
〒537-0002
大阪市東成区深江南２丁目６番８号
TEL　06-6976-8761

図　　版

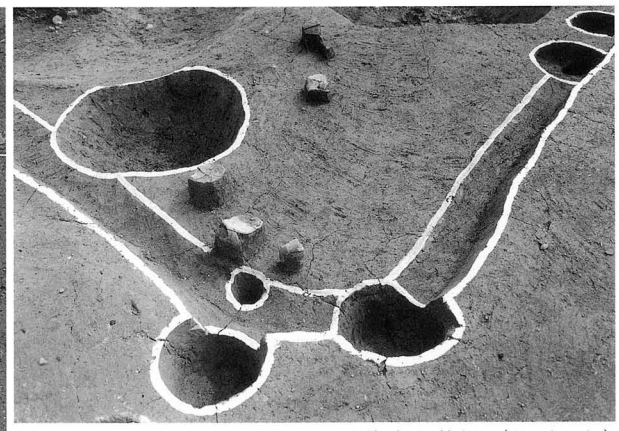
図版一　一区（〇〇〇四五）



全景

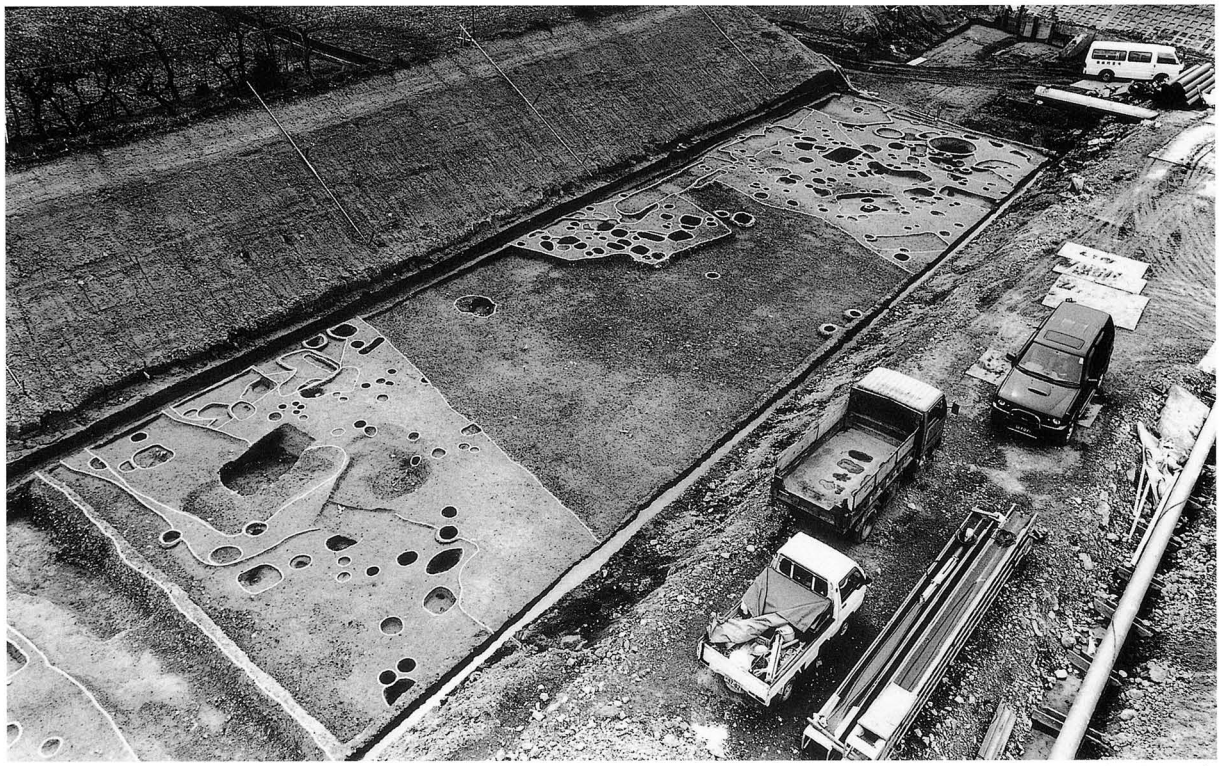


166（南から）

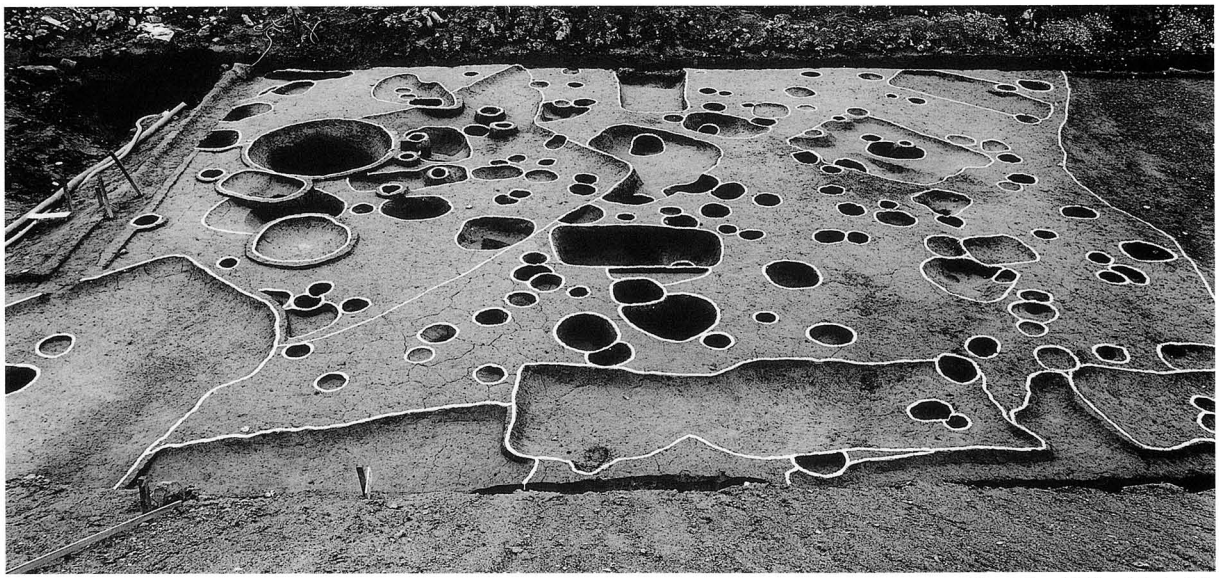


166　遺物出土状況（北西から）

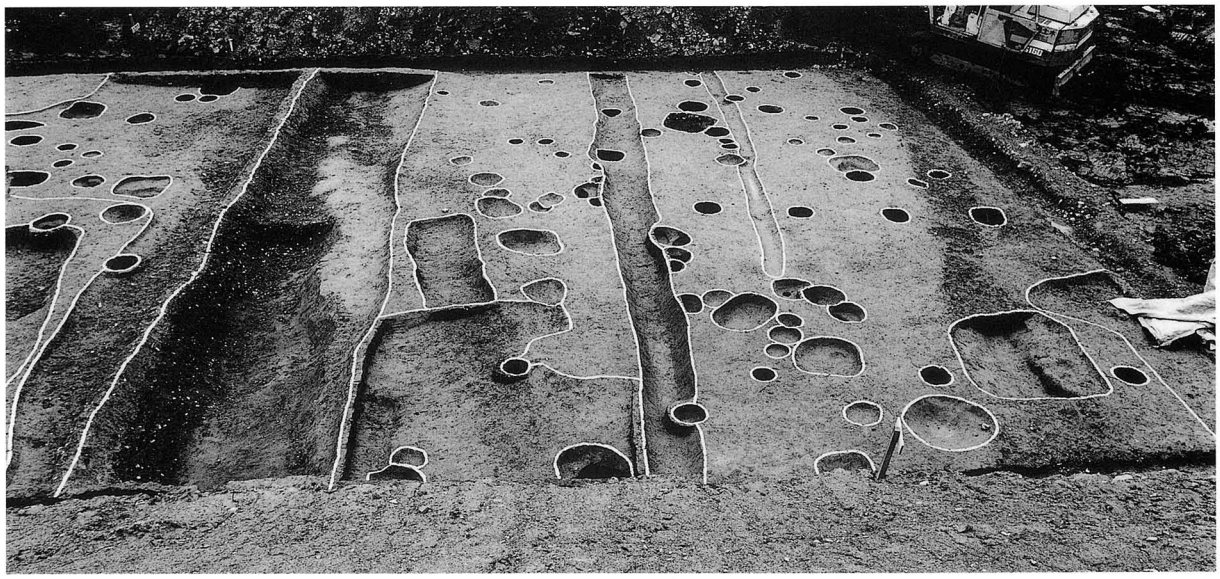
図版二　二区（〇〇〇四五）



第２面　全景（北東から）



第２面　部分（南から）



第２面　部分（南から）

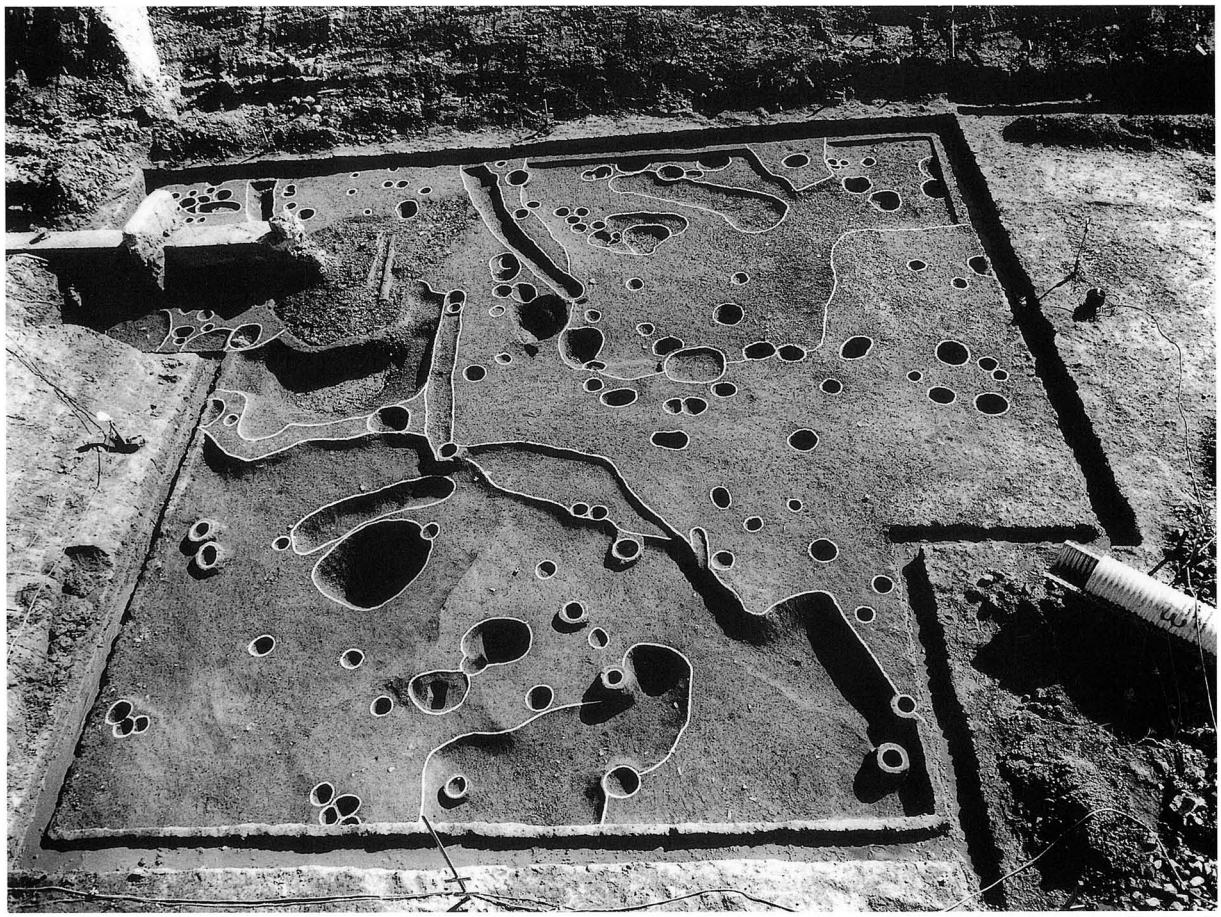
第３面（南から）

516　遺物出土状況

上・左　南から　　上・右　西から　　下・左　北から

下・右　515　遺物出土状況（北から）

図版四　三区（〇〇〇四五）

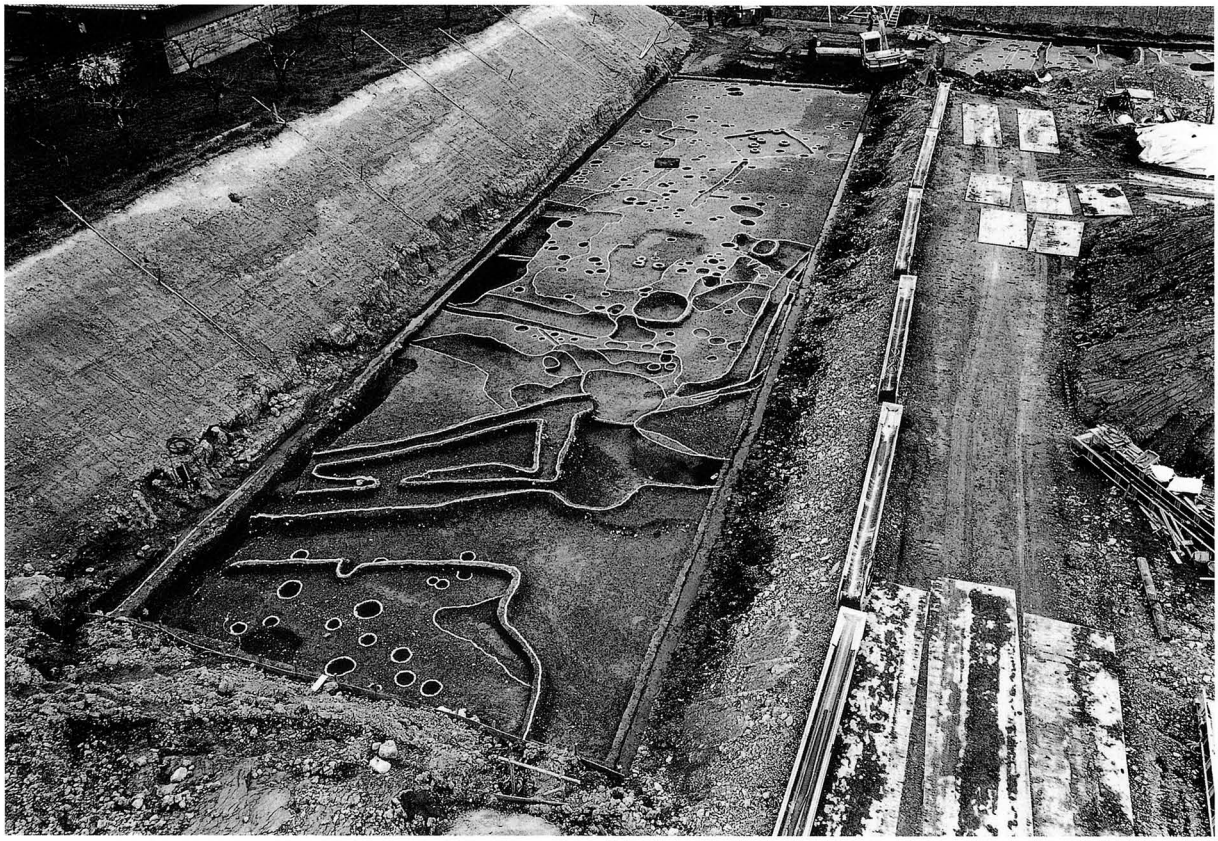


第２面　全景（北から）

上・左　341　遺物出土状況（東から）
下・左　238　遺物出土状況（南から）

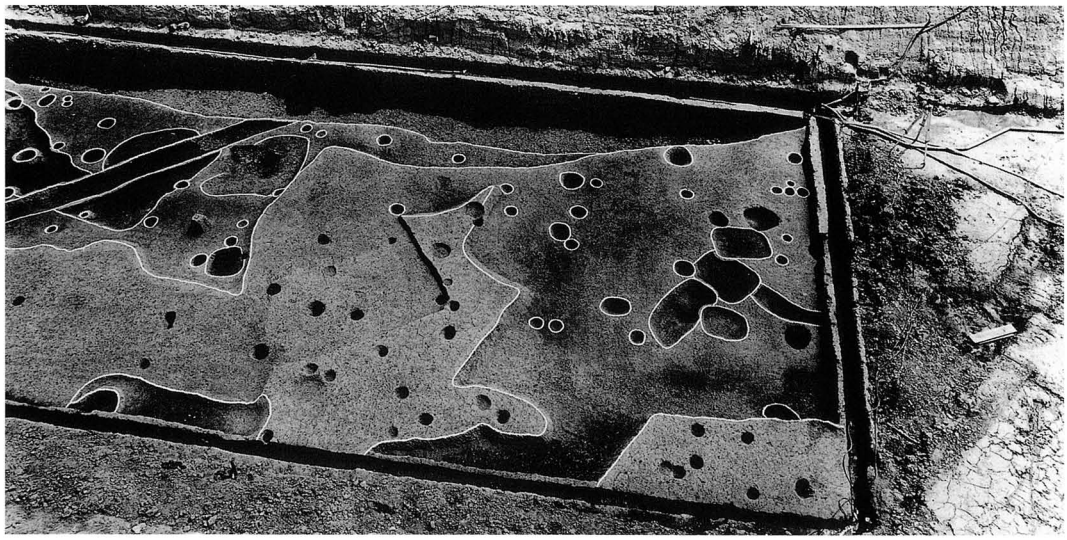
上・右　175　遺物出土状況（西から）
下・右　316　遺物出土状況（東から）

図版五　四区（〇〇〇四五）



全景（北から）

第３面　部分（上が東）



第３面　部分（上が東）

図版六　五・六区（〇一〇〇八）

5区　全景（南東から）

6区　全景（北西から）

図版七　遺物

弥生時代中期から後期

古墳時代　土師器

図版八　遺物

古墳時代　須恵器

中世